

第1章

和歌山市の現状と課題

第1章 和歌山市の現状と課題

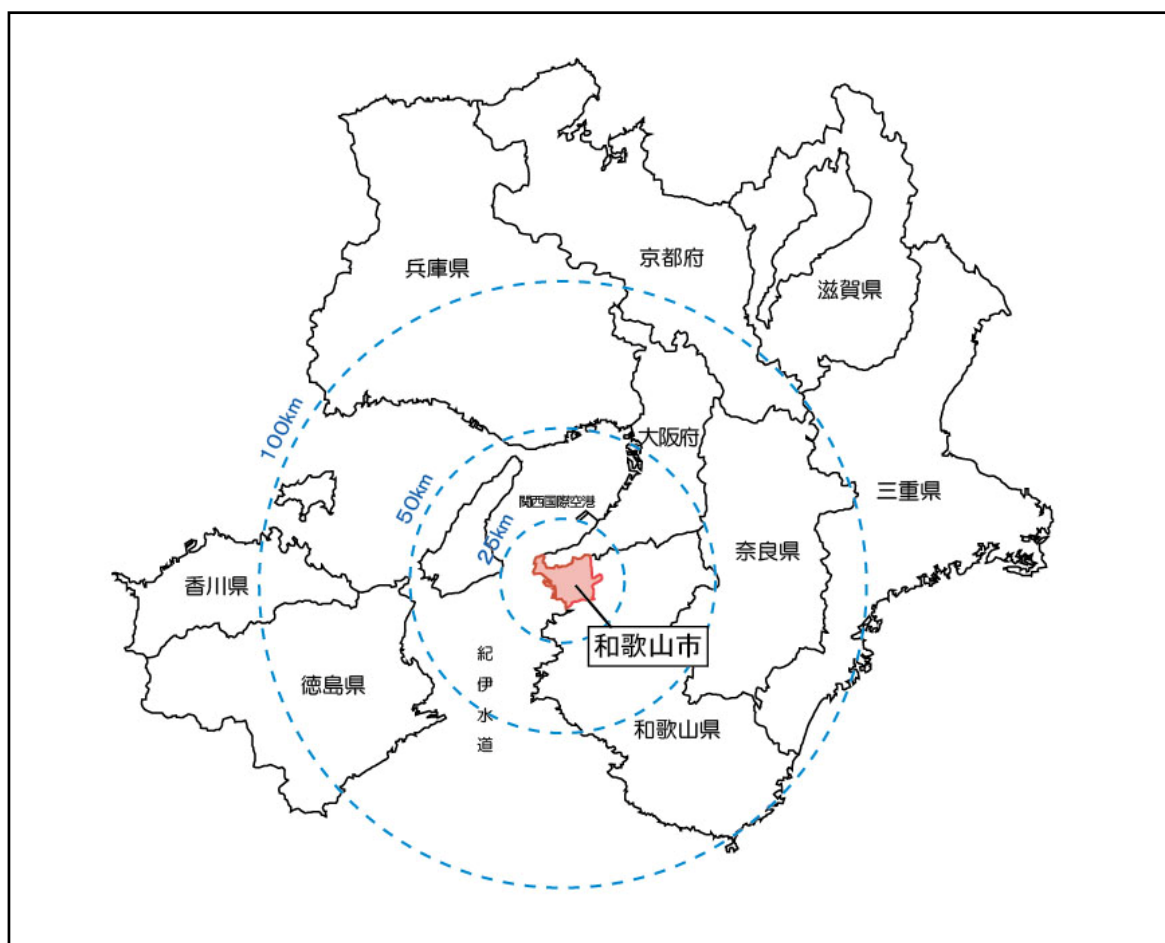
1. 和歌山市の現状

(1) 和歌山市の位置

- ・本市は、和歌山県の北西端の位置にあります。
- ・北は大阪府岬町・阪南市、南は海南市、東は岩出市・紀の川市に接しています。また、西は紀淡海峡を隔てて兵庫県（淡路島）・徳島県に相對しています。
- ・大阪から鉄道で約1時間、近畿自動車道で約1時間の距離にあります。
- ・関西国際空港から25km圏で、鉄道・バスで約40分の空港から一番近い県庁所在地です。
- ・本市は豊富な自然景観に恵まれており、北は緑豊かな和泉山脈が連なり、市のほぼ中央部を紀の川が東西に流れています。市の中心部に和歌山城があり、北西部の加太、南部の和歌浦・雑賀崎地区の沿岸は瀬戸内海国立公園の一部に指定されています。

面積	距離		海拔	
208.84 km ²	東西 29.0 km	南北 17.5 km	最高 490.2m	最低 0.6m

資料：和歌山市統計資料



和歌山市の位置図

(2) 人口

① 和歌山市の人口・世帯数の推移

国勢調査による和歌山市の人口は、昭和60年の401,352人をピークに減少傾向にあり、平成27年364,154人です。

世帯数は、平成22年と平成27年との比較では0.3%と増加率は鈍化しているものの、増加傾向にあります。

<人口・世帯数の推移>

	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口	389,717	400,802	401,352	396,553	393,885	386,551	375,591	370,364	364,154
増減率	-	2.8	0.1	-1.2	-0.7	-1.9	-2.8	-1.4	-1.7
世帯数	116,333	126,196	128,362	132,843	139,875	143,651	145,339	152,569	153,089
増減率	-	8.5	1.7	3.5	5.3	2.7	1.2	5.0	0.3

資料：国勢調査



<参考：近年の都道府県別人口の比較（国勢調査）>

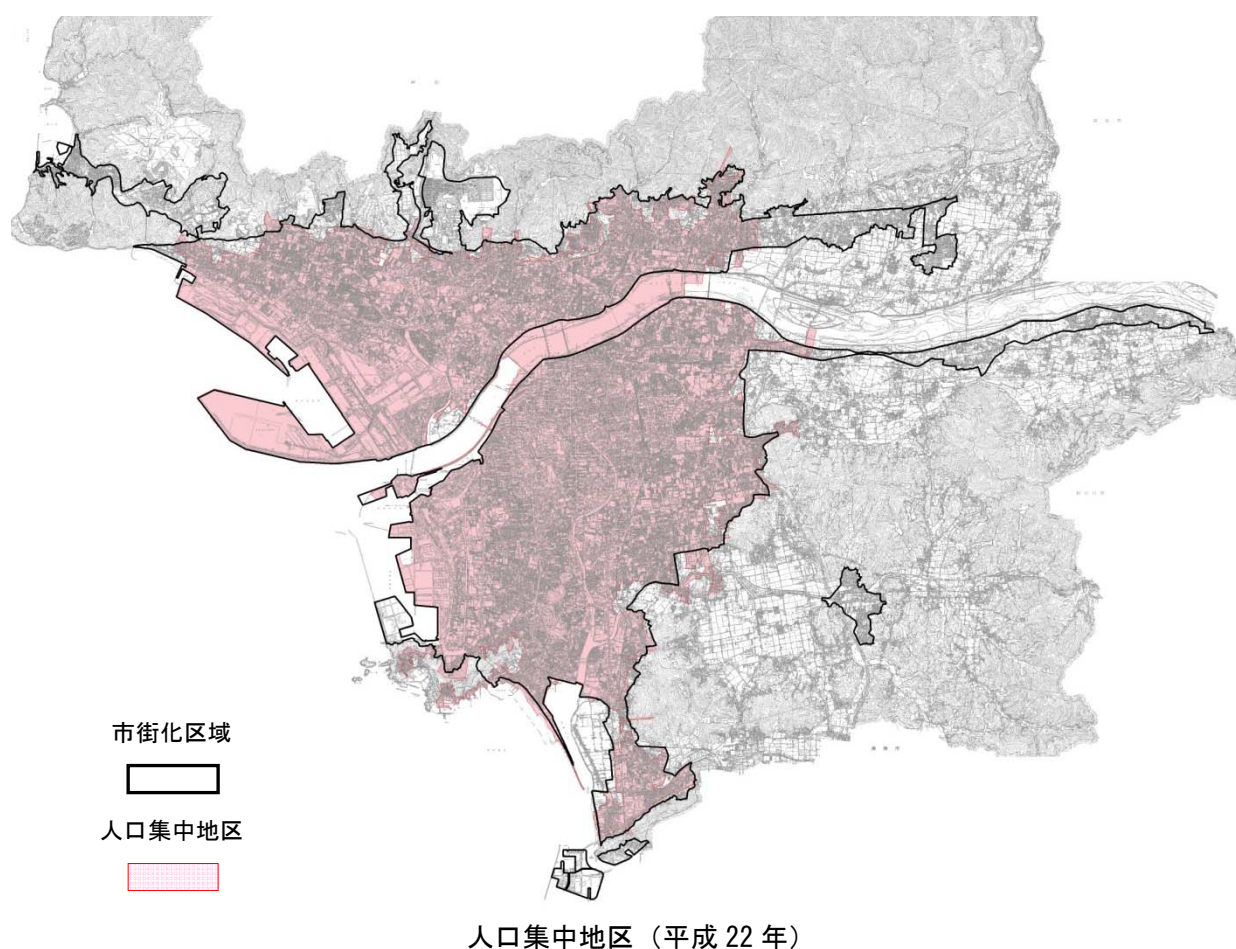
- ・全国人口では、平成22年が128,057千人、平成27年には127,110千人となり、大正9年の調査開始以降初めて減少(-0.7%)となりました。
- ・人口減少率は、1位：秋田県(-5.8%)、2位：福島県(-5.7%)、3位：青森県、高知県(-4.7%)、5位：山形県(-3.9%)に続き、6位 和歌山県(-3.8%)となっています。

② 人口集中地区

本市における人口集中地区の面積は 62.84km² で、市街化区域面積 74.15km² のうち約 85% を占めており、人口は市街化区域人口のうち約 89% が人口集中地区に居住しています。

市街化区域面積	74.15km ²	平成 23 年見直し時の面積
人口集中地区面積	62.84km ²	市街化区域面積の約 85%
市街化区域人口	320,890 人	
人口集中地区人口	284,227 人	市街化区域人口の約 89%

資料：平成 22 年国勢調査（市街化区域面積を除く）

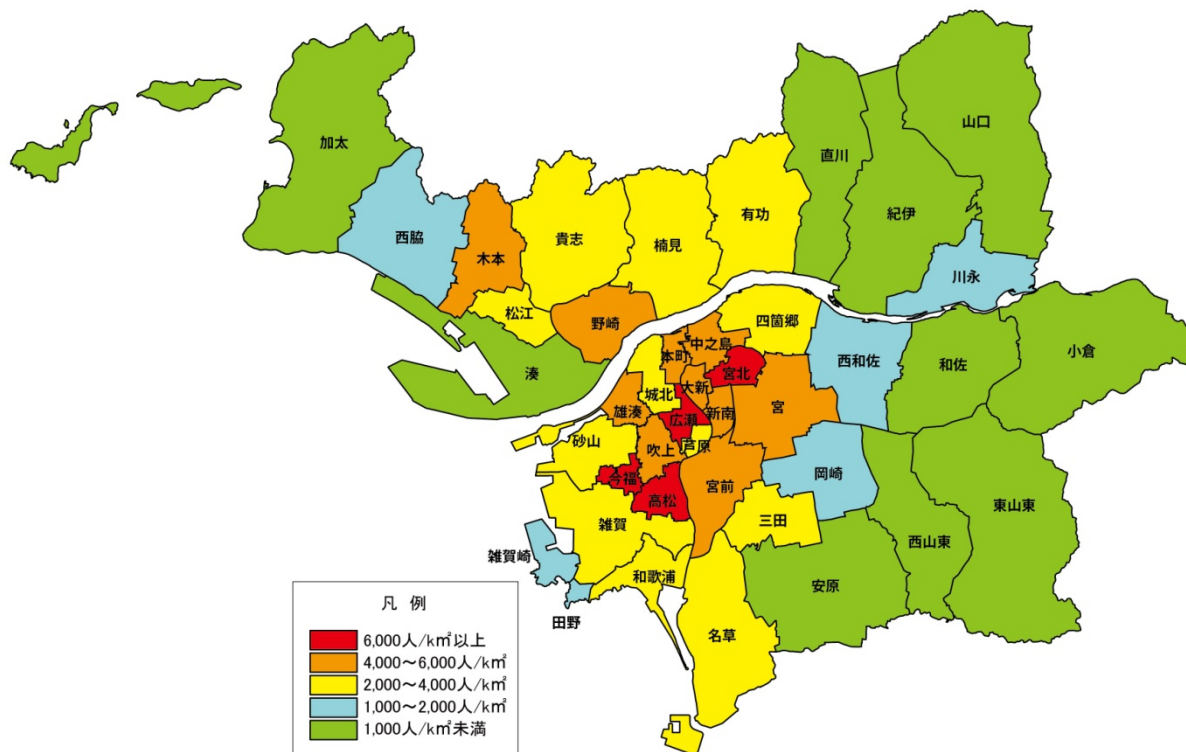


＜参考：人口集中地区＞

国勢調査において設定される統計上の地区であり、原則として、市区町村の区域内で人口密度が 4,000 人/km² 以上の基本単位区（平成 2 年（1990 年）以前は調査区）が互いに隣接して人口が 5,000 人以上となる地区に設定されます。

③ 地区別人口密度

平成27年国勢調査による地区別人口密度は、下図に示すとおりです。広瀬・高松・宮北・今福等の中心部で高く、加太・山口・東山東等の周辺部で低くなっています。

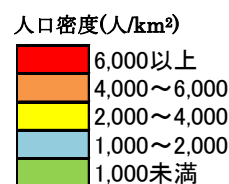


地区別人口密度図(平成27年)

資料：国勢調査

<地区別人口密度（平成27年）>

	人口	世帯	面積	人口密度 (人/km ²)
本町地区	3,400	1,639	0.67	5,075
城北地区	4,395	2,283	1.51	2,911
広瀬地区	5,448	2,602	0.80	6,810
雄湊地区	5,504	2,523	1.07	5,144
大新地区	2,989	1,530	0.58	5,153
新南地区	4,177	2,075	0.70	5,967
吹上地区	5,883	2,649	1.24	4,744
砂山地区	7,274	3,261	2.61	2,787
今福地区	3,999	1,804	0.45	8,887
高松地区	7,889	3,501	1.20	6,574
宮地区	23,026	9,890	4.71	4,889
宮北地区	6,577	3,273	0.99	6,643
四箇郷地区	16,825	6,847	4.21	3,996
中之島地区	6,830	3,224	1.43	4,776
芦原地区	2,292	1,239	0.63	3,638
宮前地区	15,692	6,792	3.49	4,496
湊地区	2,998	1,259	4.67	642
野崎地区	16,614	7,273	3.36	4,945
三田地区	7,300	2,767	2.88	2,535
松江地区	9,442	3,894	3.74	2,525
木本地区	17,908	7,362	4.24	4,224
貴志地区	20,173	8,240	7.50	2,690
楠見地区	19,461	8,162	7.31	2,662
西和佐地区	5,956	2,321	5.40	1,103
岡崎地区	9,055	3,645	5.68	1,594
西脇地区	12,986	4,968	8.12	1,599
和佐地区	6,189	2,347	7.29	849
安原地区	8,986	3,162	9.98	900
西山東地区	5,139	2,039	5.92	868
東山東地区	2,998	933	15.39	195
有功地区	16,393	6,825	7.62	2,151
直川地区	3,752	1,553	9.41	399
川永地区	5,932	2,321	4.29	1,383
小倉地区	7,971	2,920	11.66	684
加太地区	2,887	1,309	16.68	173
山口地区	3,103	1,054	12.88	241
紀伊地区	10,094	3,924	12.68	796
雑賀地区	17,250	7,025	4.83	3,571
雑賀崎地区	1,278	599	1.12	1,141
田野地区	626	252	0.34	1,841
和歌浦地区	8,696	3,865	3.04	2,861
名草地区	18,767	7,938	7.98	2,352
合計	364,154	153,089	210.30	1,732



資料：国勢調査

④ 地区別人口の推移

地区別の人口推移状況は、次頁以降の表及び図に示すとおりです。

昭和60年から平成27年の間の人口の増減は、大新・本町・加太等で減少し、貴志・山口・小倉で増加しています。

平成17年から27年の直近10年間の人口増減は、減少傾向を示す地区が大半を占めていますが、貴志・山口・安原・西和佐等で増加しています。

総じて、中心部及び沿岸部の漁業集落で人口が減少し、内陸の郊外部で人口が増加している傾向がみられます。

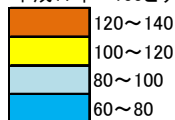
<地区別人口の推移>

	人口(人)							昭和60年=100とする指数							H17=100
	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年	
本町地区	5,913	5,284	4,638	4,120	3,721	3,645	3,400	89.4	78.4	69.7	62.9	61.6	57.5	91.4	
城北地区	6,999	6,375	5,980	5,525	5,180	4,947	4,395	91.1	85.4	78.9	74.0	70.7	62.8	84.8	
広瀬地区	7,078	6,523	6,071	5,937	5,894	5,521	5,448	92.2	85.8	83.9	83.3	78.0	77.0	92.4	
雄湊地区	8,542	7,640	6,947	6,376	5,928	5,642	5,504	89.4	81.3	74.6	69.4	66.1	64.4	92.8	
大新地区	5,012	4,452	4,148	3,669	3,361	3,401	2,989	88.8	82.8	73.2	67.1	67.9	59.6	88.9	
新南地区	5,882	5,375	4,874	4,608	4,207	4,269	4,177	91.4	82.9	78.3	71.5	72.6	71.0	99.3	
吹上地区	9,143	8,345	7,671	7,218	6,957	6,378	5,883	91.3	83.9	78.9	76.1	69.8	64.3	84.6	
砂山地区	9,910	9,042	8,646	8,042	7,703	7,733	7,274	91.2	87.2	81.2	77.7	78.0	73.4	94.4	
今福地区	6,069	5,697	5,133	4,744	4,324	4,189	3,999	93.9	84.6	78.2	71.2	69.0	65.9	92.5	
高松地区	10,176	9,327	8,809	8,274	7,921	7,925	7,889	91.7	86.6	81.3	77.8	77.9	77.5	99.6	
宮地区	23,520	23,836	23,711	23,750	23,329	23,551	23,026	101.3	100.8	101.0	99.2	100.1	97.9	98.7	
宮北地区	7,662	7,037	6,339	6,111	6,417	6,448	6,577	91.8	82.7	79.8	83.8	84.2	85.8	102.5	
四箇郷地区	15,602	16,491	16,658	16,958	16,860	16,954	16,825	105.7	106.8	108.7	108.1	108.7	107.8	99.8	
中之島地区	9,853	8,743	8,146	7,383	6,827	6,852	6,830	88.7	82.7	74.9	69.3	69.5	69.3	100.0	
芦原地区	3,436	3,303	3,341	3,071	2,903	2,600	2,292	96.1	97.2	89.4	84.5	75.7	66.7	79.0	
宮前地区	17,078	16,612	16,206	16,206	16,112	16,164	15,692	97.3	94.9	94.9	94.3	94.6	91.9	97.4	
湊地区	4,355	3,888	3,652	3,479	3,277	3,090	2,998	89.3	83.9	79.9	75.2	71.0	68.8	91.5	
野崎地区	18,856	18,316	19,143	18,627	17,663	17,045	16,614	97.1	101.5	98.8	93.7	90.4	88.1	94.1	
三田地区	6,653	6,867	7,215	7,259	7,107	7,315	7,300	103.2	108.4	109.1	106.8	110.0	109.7	102.7	
松江地区	11,911	11,121	10,732	10,675	10,405	10,307	9,442	93.4	90.1	89.6	87.4	86.5	79.3	90.7	
木本地区	18,507	18,826	20,165	19,465	18,550	17,907	17,908	101.7	109.0	105.2	100.2	96.8	96.8	96.5	
貴志地区	11,835	13,534	15,258	15,794	16,731	18,853	20,173	114.4	128.9	133.5	141.4	159.3	170.5	120.6	
楠見地区	19,275	21,046	21,750	21,169	20,557	19,790	19,461	109.2	112.8	109.8	106.7	102.7	101.0	94.7	
西和佐地区	5,573	5,598	5,317	5,134	5,234	5,414	5,956	100.4	95.4	92.1	93.9	97.1	106.9	113.8	
岡崎地区	8,046	8,663	8,645	8,674	8,662	8,878	9,055	107.7	107.4	107.8	107.7	110.3	112.5	104.5	
西脇地区	12,414	12,846	12,925	13,251	13,308	12,985	12,986	103.5	104.1	106.7	107.2	104.6	104.6	97.6	
和佐地区	5,484	5,544	6,157	6,297	6,157	6,136	6,189	101.1	112.3	114.8	112.3	111.9	112.9	100.5	
安原地区	7,878	7,872	7,876	7,760	7,835	8,314	8,986	99.9	100.0	98.5	99.5	105.5	114.1	114.7	
西山東地区	6,637	6,564	6,599	6,266	5,596	5,434	5,139	98.9	99.4	94.4	84.3	81.9	77.4	91.8	
東山東地区	3,166	3,113	3,114	3,141	3,031	2,944	2,998	98.3	98.4	99.2	95.7	93.0	94.7	98.9	
有功地区	17,735	18,886	19,739	19,347	18,306	17,208	16,393	106.5	111.3	109.1	103.2	97.0	92.4	89.5	
直川地区	4,431	4,069	4,103	3,920	3,891	3,764	3,752	91.8	92.6	88.5	87.8	84.9	84.7	96.4	
川永地区	6,490	6,344	5,616	5,943	5,828	6,262	5,932	97.8	86.5	91.6	89.8	96.5	91.4	101.8	
小倉地区	6,919	7,160	7,859	8,443	8,296	7,995	7,971	103.5	113.6	122.0	119.9	115.6	115.2	96.1	
加太地区	5,185	4,896	4,515	4,271	3,897	3,408	2,887	94.4	87.1	82.4	75.2	65.7	55.7	74.1	
山口地区	2,618	2,604	2,584	2,478	2,440	2,529	3,103	99.5	98.7	94.7	93.2	96.6	118.5	127.2	
紀伊地区	9,484	9,426	9,946	10,105	9,874	9,501	10,094	99.4	104.9	106.5	104.1	100.2	106.4	102.2	
雑賀地区	20,159	20,264	20,036	19,184	18,453	17,496	17,250	100.5	99.4	95.2	91.5	86.8	85.6	93.5	
雑賀崎地区	2,432	2,128	2,038	1,870	1,692	1,480	1,278	87.5	83.8	76.9	69.6	60.9	52.5	75.5	
田野地区	1,153	962	859	844	810	699	626	83.4	74.5	73.2	70.3	60.6	54.3	77.3	
和歌浦地区	13,322	12,565	11,656	11,114	10,265	9,502	8,696	94.3	87.5	83.4	77.1	71.3	65.3	84.7	
名草地区	18,959	19,369	19,068	20,049	20,082	19,889	18,767	102.2	100.6	105.7	105.9	104.9	99.0	93.5	
合計	401,352	396,553	393,885	386,551	375,591	370,364	364,154	98.8	98.1	96.3	93.6	92.3	90.7	97.0	

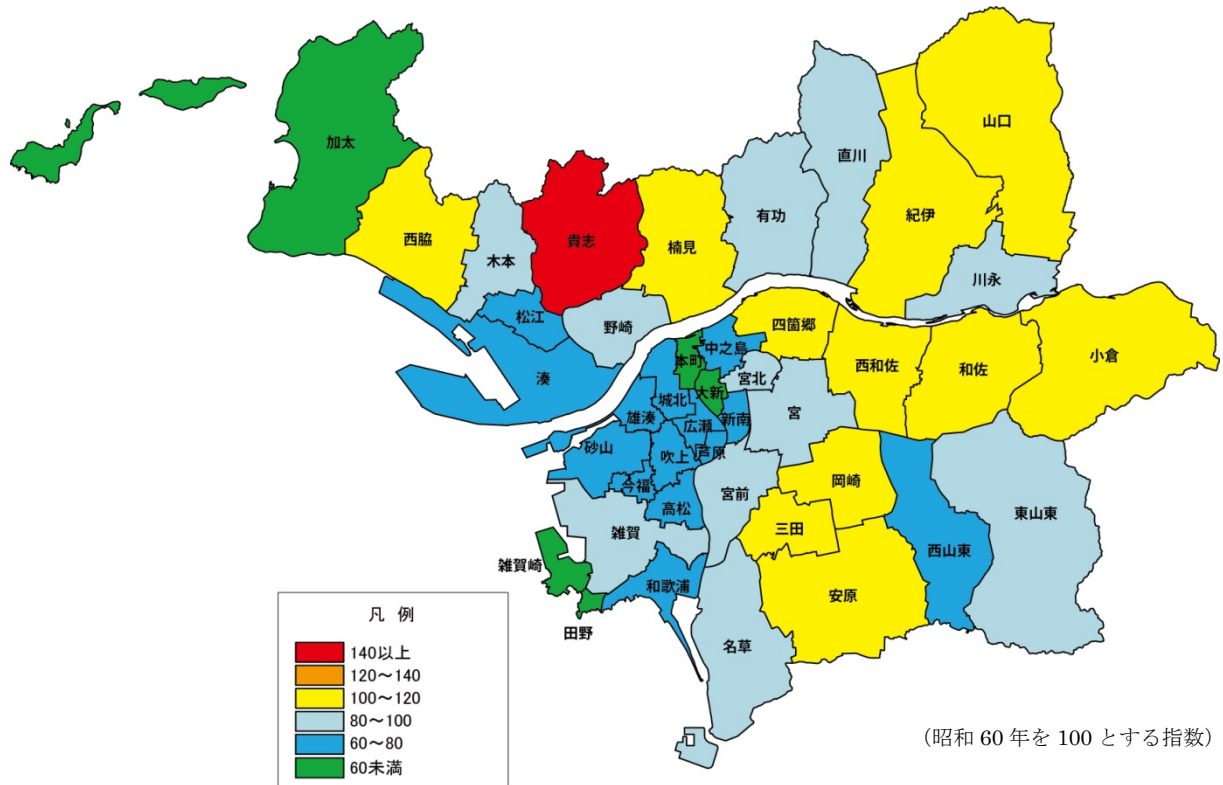
昭和60年=100とする指数



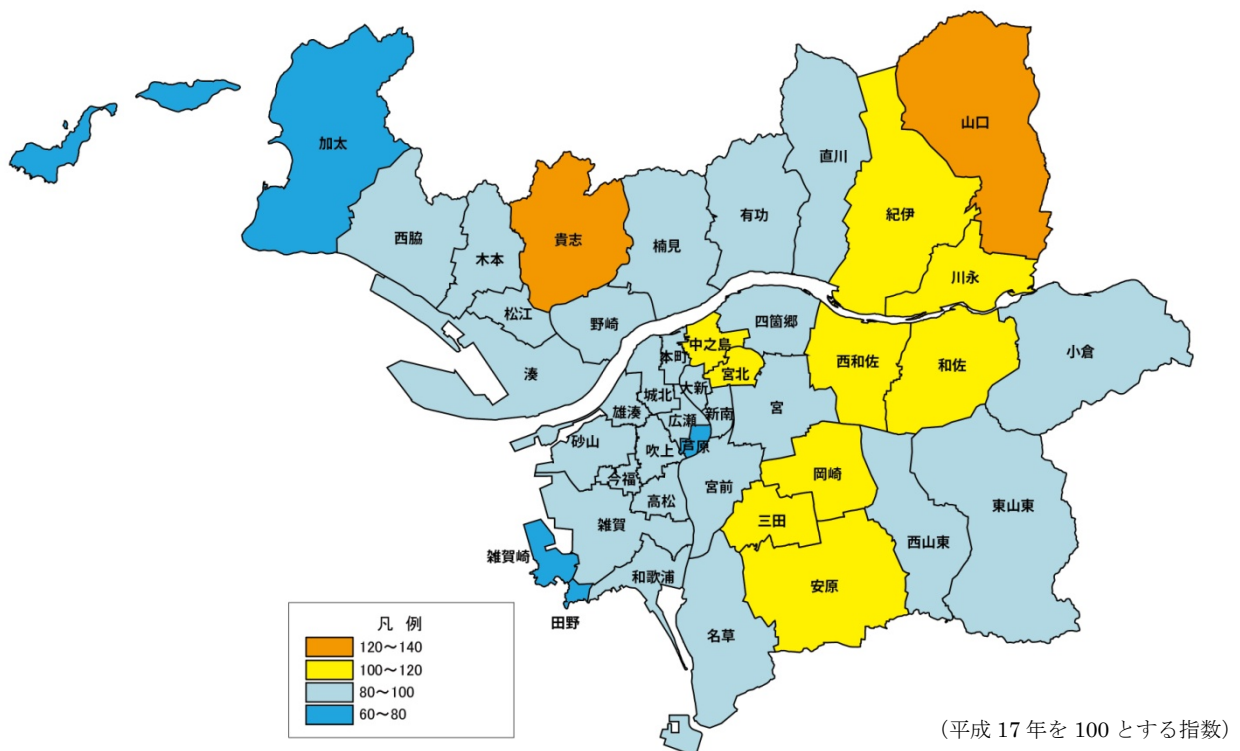
平成17年=100とする指数



資料：国勢調査



地区別人口の推移（昭和60年⇒平成27年）



地区別人口の推移（平成17年⇒平成27年）

資料：国勢調査

⑤ 流出入人口の推移

昼夜間人口比率は、昭和 55 年から平成 22 年の間 103%から 104%でほぼ一定の割合です。流出入人口は流入超過であり、昭和 55 年約 1 万 2 千人の流入超過、平成 22 年約 1 万 6 千人の流入超過で流入傾向が強まっています。

通勤・通学による流出・流入人口では、県内からの流入が約 3 万人、他府県への流出が約 1 万 3 千人となっています。本市は県内の中心都市でありつつ、大阪府等のベッドタウンとしての性格も有しています。

<昼間人口・就業者数・流出人口・流入人口>

	昭和 55 年	平成 2 年	平成 12 年	平成 22 年
人口(人)	400,802	396,553 (99)	386,551 (96)	370,364 (92)
昼間人口(人)	412,313	408,534 (99)	402,597 (98)	381,966 (93)
昼夜間人口比率(%)	103.0	103.2	104.2	104.5
流出人口(人)	18,272	23,770 (130)	24,840 (136)	24,358 (133)
流入人口(人)	30,090	36,283 (121)	40,940 (136)	40,747 (135)
流入超過人口(人)	11,818	12,513	16,100	16,389
年齢不詳人口(人)	307	532	54	4,787

※ 昼間人口=人口-流出人口+流入人口(年齢不詳の人口を除く)

※ 昼夜間人口比率=昼間人口÷人口×100、人口(常住人口)100人当たりの昼間人口。(年齢不詳の人口を除く)この比率が100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過を示す。

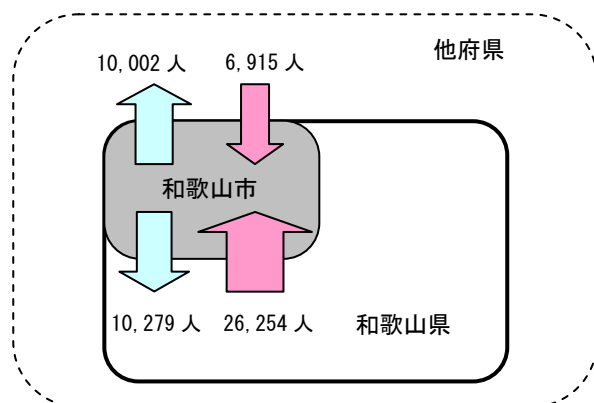
※ 下段は、昭和 55 年を 100 とする指数

資料：国勢調査

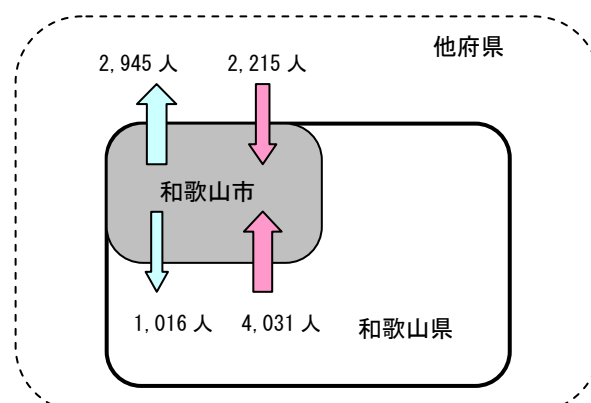
<通勤・通学による流出・流入人口>

通勤による流出人口		通勤による流入人口		通学による流出人口		通学による流入人口	
県内 他市町村へ	他府県へ	県内 他市町村から	他府県から	県内 他市町村へ	他府県へ	県内 他市町村から	他府県から
10,279	10,002	26,254	6,915	1,016	2,945	4,031	2,215

(平成 22 年 10 月現在)



<通勤による流出入人口>



<通学による流出入人口>

⑥ 高齢化率

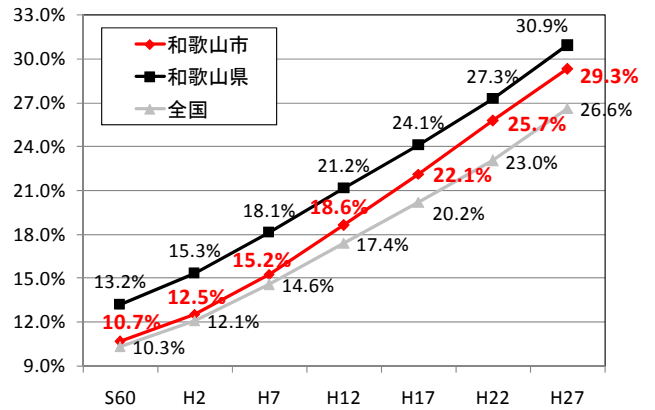
和歌山市の高齢化率の状況は、平成2年以降、全国平均に比べ高齢化率が高くなっており、平成27年で29.3%となっています。

地区別には、加太・雑賀崎の周辺部とともに、市街地中心部の本町・大新・広瀬で35%以上と高い状況となっており、次いで、市街地中心部の城北・雄湊・吹上や郊外部の川永・小倉・東山東等では、30%以上の比較的高い状況となっています。また、貴志については18.1%と低い状況となっています。

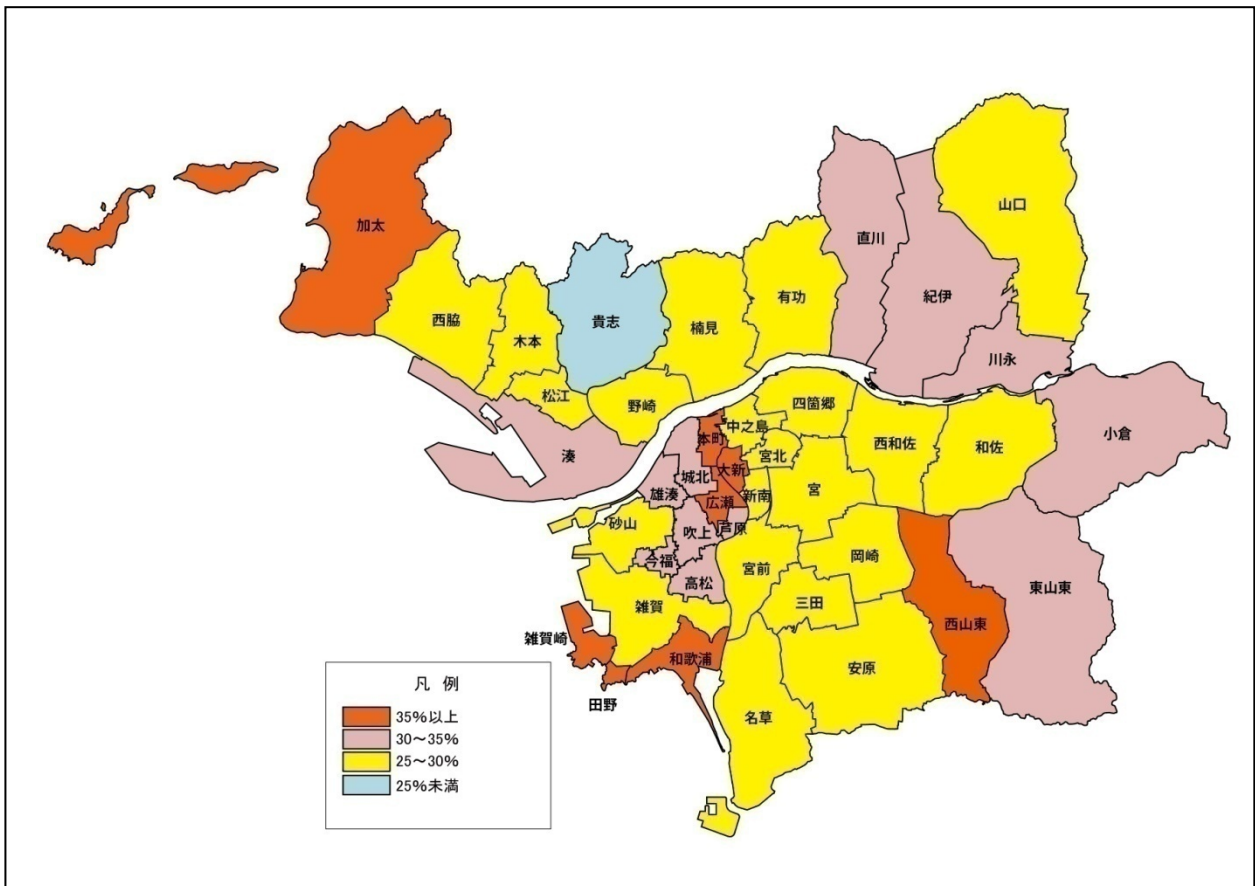
<高齢化率（65歳以上）の推移>

	和歌山市	和歌山県	全国
昭和60年	10.7%	13.2%	10.3%
平成2年	12.5%	15.3%	12.1%
平成7年	15.2%	18.1%	14.6%
平成12年	18.6%	21.2%	17.4%
平成17年	22.1%	24.1%	20.2%
平成22年	25.7%	27.3%	23.0%
平成27年	29.3%	30.9%	26.6%

資料：国勢調査



資料：国勢調査



地区別高齢化率（平成27年）

資料：国勢調査

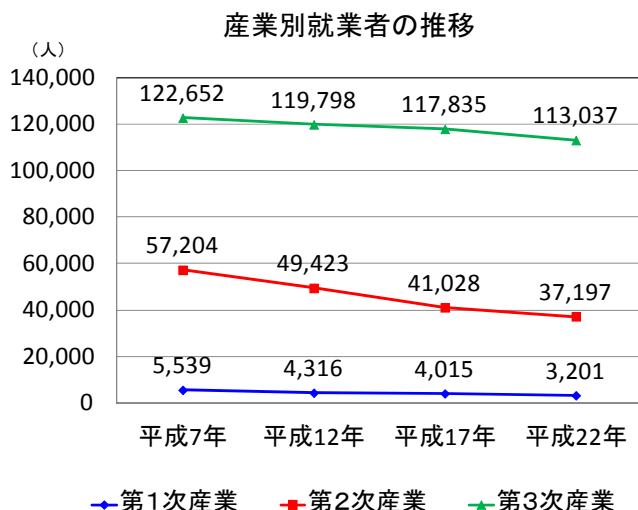
<地区別年齢階級別人口（平成27年）>

	年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		高齢人口 (65歳以上)		小計		年齢 不詳	合計
	人口(人)	率	人口(人)	率	人口(人)	率	人口(人)	率		
本町地区	271	8.0%	1,802	53.5%	1,296	38.5%	3,369	100.0%	31	3,400
城北地区	319	7.3%	2,533	58.0%	1,514	34.7%	4,366	100.0%	29	4,395
広瀬地区	496	9.2%	2,991	55.4%	1,912	35.4%	5,399	100.0%	49	5,448
雄湊地区	535	9.8%	3,063	56.0%	1,872	34.2%	5,470	100.0%	34	5,504
大新地区	215	7.3%	1,700	57.5%	1,040	35.2%	2,955	100.0%	34	2,989
新南地区	379	9.1%	2,525	60.9%	1,241	29.9%	4,145	100.0%	32	4,177
吹上地区	641	10.9%	3,303	56.4%	1,917	32.7%	5,861	100.0%	22	5,883
砂山地区	821	11.3%	4,301	59.4%	2,114	29.2%	7,236	100.0%	38	7,274
今福地区	425	10.6%	2,172	54.4%	1,398	35.0%	3,995	100.0%	4	3,999
高松地区	953	12.2%	4,380	55.9%	2,497	31.9%	7,830	100.0%	59	7,889
宮地区	2,846	12.4%	13,716	59.9%	6,330	27.7%	22,892	100.0%	134	23,026
宮北地区	680	10.4%	4,122	63.1%	1,732	26.5%	6,534	100.0%	43	6,577
四箇郷地区	2,047	12.2%	10,206	61.0%	4,482	26.8%	16,735	100.0%	90	16,825
中之島地区	801	11.9%	3,936	58.5%	1,992	29.6%	6,729	100.0%	101	6,830
芦原地区	215	9.4%	1,270	55.8%	793	34.8%	2,278	100.0%	14	2,292
宮前地区	1,881	12.1%	9,097	58.5%	4,584	29.5%	15,562	100.0%	130	15,692
湊地区	349	11.7%	1,742	58.2%	900	30.1%	2,991	100.0%	7	2,998
野崎地区	1,900	11.5%	9,810	59.5%	4,769	28.9%	16,479	100.0%	135	16,614
三田地区	994	13.7%	4,293	59.2%	1,967	27.1%	7,254	100.0%	46	7,300
松江地区	1,159	12.3%	5,498	58.3%	2,769	29.4%	9,426	100.0%	16	9,442
木本地区	2,032	11.4%	10,608	59.5%	5,200	29.1%	17,840	100.0%	68	17,908
貴志地区	3,816	19.1%	12,569	62.8%	3,626	18.1%	20,011	100.0%	162	20,173
楠見地区	2,320	12.0%	11,541	59.7%	5,472	28.3%	19,333	100.0%	128	19,461
西和佐地区	887	14.9%	3,525	59.4%	1,524	25.7%	5,936	100.0%	20	5,956
岡崎地区	1,212	13.4%	5,398	59.7%	2,425	26.8%	9,035	100.0%	20	9,055
西脇地区	1,807	14.0%	7,339	56.8%	3,779	29.2%	12,925	100.0%	61	12,986
和佐地区	1,437	16.0%	5,143	57.4%	2,382	26.6%	8,962	100.0%	24	8,986
安原地区	880	14.3%	3,643	59.1%	1,646	26.7%	6,169	100.0%	20	6,189
西山東地区	363	12.1%	1,552	51.8%	1,083	36.1%	2,998	100.0%	-	2,998
東山東地区	587	11.4%	2,882	56.1%	1,664	32.4%	5,133	100.0%	6	5,139
有功地区	1,829	11.2%	9,601	58.9%	4,873	29.9%	16,303	100.0%	90	16,393
直川地区	484	12.9%	2,113	56.5%	1,145	30.6%	3,742	100.0%	10	3,752
川永地区	858	14.5%	3,279	55.4%	1,787	30.2%	5,924	100.0%	8	5,932
小倉地区	883	11.1%	4,624	58.1%	2,450	30.8%	7,957	100.0%	14	7,971
加太地区	172	6.0%	1,418	49.2%	1,290	44.8%	2,880	100.0%	7	2,887
山口地区	504	16.3%	1,688	54.5%	907	29.3%	3,099	100.0%	4	3,103
紀伊地区	1,238	12.3%	5,511	54.7%	3,330	33.0%	10,079	100.0%	15	10,094
雑賀地区	2,099	12.2%	10,191	59.3%	4,904	28.5%	17,194	100.0%	56	17,250
雑賀崎地区	94	7.4%	606	47.4%	578	45.2%	1,278	100.0%	-	1,278
田野地区	39	6.2%	215	34.3%	372	59.4%	626	100.0%	-	626
和歌浦地区	791	9.1%	4,628	53.5%	3,228	37.3%	8,647	100.0%	49	8,696
名草地区	2,260	12.1%	11,219	60.2%	5,170	27.7%	18,649	100.0%	118	18,767
和歌山市 計	44,519	12.3%	211,753	58.5%	105,954	29.3%	362,226	100.0%	1928	364,154

資料：国勢調査

⑦ 産業別就業者

平成7年から平成22年間の産業別就業者数の推移は、下図及び下表のとおりです。
 第3次産業就業者は、ほぼ横ばいの状況ですが、第1次産業・第2次産業では10年間で3割弱、15年間で第1次産業が4割強、第2次産業が3割強の減少となっています。



<産業別就業者の推移>

	平成7年		平成12年		平成17年		平成22年		増減率(%)				
	就業者	比率(%)	就業者	比率(%)	就業者	比率(%)	就業者	比率(%)	H7~12	H12~17	H17~22	H7~22	
第1次産業	農業	4,810	2.6%	3,747	2.1%	3,548	2.1%	2,862	1.8%	△ 22.1	△ 5.3	△ 19.3	△ 40.5
	林業	42	0.0%	40	0.0%	26	0.0%	44	0.0%	△ 4.8	△ 35.0	69.2	4.8
	漁業	687	0.4%	529	0.3%	441	0.3%	295	0.2%	△ 23.0	△ 16.6	△ 33.1	△ 57.1
	小計	5,539	2.9%	4,316	2.4%	4,015	2.4%	3,201	2.0%	△ 22.1	△ 7.0	△ 20.3	△ 42.2
第2次産業	鉱業	18	0.0%	33	0.0%	22	0.0%	13	0.0%	83.3	△ 33.3	△ 40.9	△ 27.8
	建築業	17,902	9.5%	16,758	9.5%	14,443	8.6%	12,432	7.6%	△ 6.4	△ 13.8	△ 13.9	△ 30.6
	製造業	39,284	20.9%	32,632	18.5%	26,563	15.8%	24,752	15.2%	△ 16.9	△ 18.6	△ 6.8	△ 37.0
	小計	57,204	30.4%	49,423	28.0%	41,028	24.3%	37,197	22.8%	△ 13.6	△ 17.0	△ 9.3	△ 35.0
第3次産業	電気・ガス・水道	1,792	1.0%	1,619	0.9%	1,325	0.8%	1,222	0.8%	△ 9.7	△ 18.2	△ 7.8	△ 31.8
	運輸・通信業	12,624	6.7%	11,793	6.7%	11,915	7.1%	11,332	7.0%	△ 6.6	1.0	△ 4.9	△ 10.2
	販売・小売・飲食	46,010	24.4%	43,944	24.9%	41,396	24.6%	37,075	22.8%	△ 4.5	△ 5.8	△ 10.4	△ 19.4
	金融・保険業	7,331	3.9%	6,001	3.4%	5,184	3.1%	4,746	2.9%	△ 18.1	△ 13.6	△ 8.4	△ 35.3
	不動産業	2,115	1.1%	2,035	1.2%	2,103	1.2%	2,623	1.6%	△ 3.8	3.3	24.7	24.0
	サービス業	45,603	24.2%	47,541	26.9%	49,353	29.3%	49,263	30.2%	4.2	3.8	△ 0.2	8.0
	公務	7,177	3.8%	6,865	3.9%	6,559	3.9%	6,776	4.2%	△ 4.3	△ 4.5	3.3	△ 5.6
小計	122,652	65.1%	119,798	67.8%	117,835	69.9%	113,037	69.4%	△ 2.3	△ 1.6	△ 4.1	△ 7.8	
分類不能	2,927	1.6%	3,049	1.7%	5,643	3.3%	9,490	5.8%	4.2	85.1	68.2	224.2	
合計	188,322	100.0%	176,586	100.0%	168,521	100.0%	162,925	100.0%	△ 6.2	△ 4.6	△ 3.3	△ 13.5	

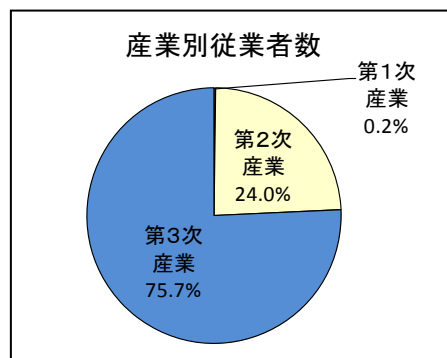
※ (平成17年) 運輸通信業=情報通信業+運輸業
 (平成17年) サービス業=医療、福祉+教育、学習支援+複合サービス
 (平成17年) 卸売・小売・飲食=卸売・小売+飲食、宿泊業
 ※ (平成22年) 鉱業=鉱業、採石業、砂利採取業 (平成22年) 運輸・通信業=情報通信業+運輸業、郵便業
 (平成22年) 販売・小売・飲食=卸売業、小売業+宿泊業、飲食サービス業
 (平成22年) サービス業=学術研究、専門・技術サービス+生活関連サービス、娯楽業+医療、福祉+教育、学習支援業+複合サービス業

資料：国勢調査

(3) 産 業

① 事業所・従業者数

和歌山市における第1次産業の事業所数は19(0.1%)、従業者数は340人(0.2%)、第2次産業の事業所数は2,713(16.5%)、従業者数は38,504人(24.0%)、第3次産業の事業所数は13,709(83.4%)、従業者数は121,276人(75.7%)です。



事業所数で多いのは、卸売業、小売業(27.3%)、宿泊業、飲食サービス業(10.8%)、製造業(9.0%)であり、従業者数で多いのは、卸売業、小売業(21.2%)、製造業(17.0%)、医療、福祉(14.0%)、1事業所あたりの平均従業者数で多いのは、電気・ガス・熱供給・水道業の76.7人、運輸業、郵便業の27.3人、製造業の18.4人の順です。

<産業別事業所数・従業者数(平成24年)>

	和歌山市			和歌山県		
	①事業所数	②従業者数	平均従業者数 (②/①)	①事業所数	②従業者数	平均従業者数 (②/①)
第1次産業	19	340	17.9	238	2,919	12.3
	0.1%	0.2%		0.5%	0.8%	
農林漁業	19	340	17.9	238	2,919	12.3
	0.1%	0.2%		0.5%	0.8%	
第2次産業	2,713	38,504	14.2	9,023	92,162	10.2
	16.5%	24.0%		18.3%	24.5%	
鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	-	9	105	11.7
	-	-		0.0%	0.0%	
建設業	1,233	11,252	9.1	4,680	28,575	6.1
	7.5%	7.0%		9.5%	7.6%	
製造業	1,480	27,252	18.4	4,334	63,482	14.6
	9.0%	17.0%		8.8%	16.9%	
第3次産業	13,709	121,276	8.8	39,935	281,652	7.1
	83.4%	75.7%		81.2%	74.8%	
電気・ガス・熱供給・水道業	10	767	76.7	37	1,625	43.9
	0.1%	0.5%		0.1%	0.4%	
情報通信業	135	2,297	17.0	267	3,291	12.3
	0.8%	1.4%		0.5%	0.9%	
運輸業、郵便業	353	9,653	27.3	981	20,201	20.6
	2.1%	6.0%		2.0%	5.4%	
卸売業、小売業	4,483	33,948	7.6	13,910	84,766	6.1
	27.3%	21.2%		28.3%	22.5%	
金融業、保険業	334	5,786	17.3	771	10,507	13.6
	2.0%	3.6%		1.6%	2.8%	
不動産業、物品賃貸業	1,336	4,148	3.1	3,018	7,942	2.6
	8.1%	2.6%		6.1%	2.1%	
学術研究、専門・技術サービス業	619	3,550	5.7	1,461	7,294	5.0
	3.8%	2.2%		3.0%	1.9%	
宿泊業、飲食サービス業	1,776	14,275	8.0	5,927	37,377	6.3
	10.8%	8.9%		12.0%	9.9%	
生活関連サービス業、娯楽業	1,411	6,334	4.5	4,458	17,230	3.9
	8.6%	4.0%		9.1%	4.6%	
教育、学習支援業	478	6,231	13.0	1,535	11,081	7.2
	2.9%	3.9%		3.1%	2.9%	
医療、福祉	1,336	22,485	16.8	3,398	52,474	15.4
	8.1%	14.0%		6.9%	13.9%	
複合サービス事業	117	947	8.1	471	4,482	9.5
	0.7%	0.6%		1.0%	1.2%	
サービス業(他に分類されないもの)	1,321	10,855	8.2	3,701	23,382	6.3
	8.0%	6.8%		7.5%	6.2%	
全産業	16,441	160,120	9.7	49,196	376,733	7.7
	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	

※平成24年経済センサス-活動調査において、国・地方公共団体の事業所は調査対象外。

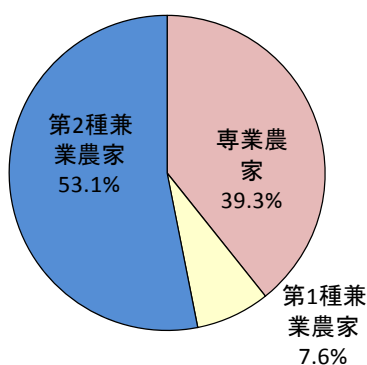
資料：経済センサス

② 農業

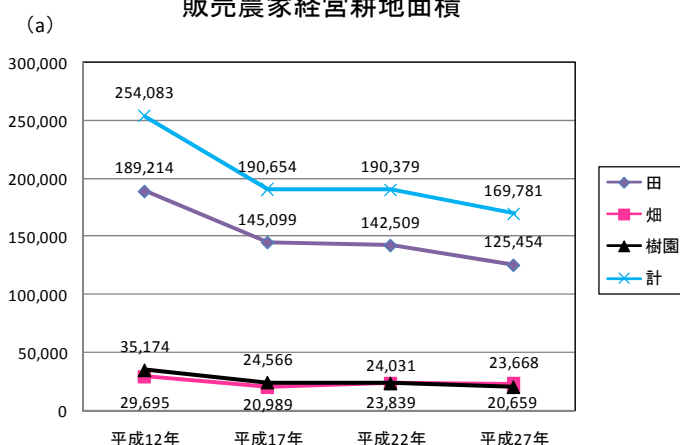
農家数は、平成12年の4,772戸から平成27年には3,651戸と、平成12年時より約24%減少しています。平成27年の専業農家は39.3%で和歌山県の47.8%に比べ低い状況にあります。

和歌山県全体の耕地面積では、田26.8%、みかん・うめ・かき等の樹園地67.7%を占めていますが、和歌山市では田73.9%、樹園地12.2%と田の占める割合が大きくなっています。

専業・兼業農家数（平成27年）



販売農家経営耕地面積



<専業・兼業農家数・販売農家経営耕地面積>

	農家数(戸)					販売農家経営耕地面積(a)				1戸当たりの耕作面積(a)
	総数	販売農家	専業・兼業			総数	田	畑	樹園	
			専業	第1種兼業	第2種兼業					
平成12年	4,772	3,227	611	338	2,278	254,083	189,214	29,695	35,174	78.7
			18.9%	10.5%	70.6%	100.0%	74.5%	11.7%	13.8%	
平成17年	4,304	2,673	715	366	1,592	190,653	145,099	20,989	24,566	71.3
			26.7%	13.7%	59.6%	100.0%	76.1%	11.0%	12.9%	
平成22年	4,093	2,500	780	300	1,420	190,379	142,509	24,031	23,839	76.2
			31.2%	12.0%	56.8%	100.0%	74.9%	12.6%	12.5%	
平成27年	3,651	2,173	854	165	1,154	169,781	125,454	23,668	20,659	78.1
			39.3%	7.6%	53.1%	100.0%	73.9%	13.9%	12.2%	
和歌山県(平成27年)	29,713	20,352	9,732	2,752	7,868	2,142,561	574,160	117,315	1,451,086	105.3
			47.8%	13.5%	38.7%	100.0%	26.8%	5.5%	67.7%	

資料：農林業センサス

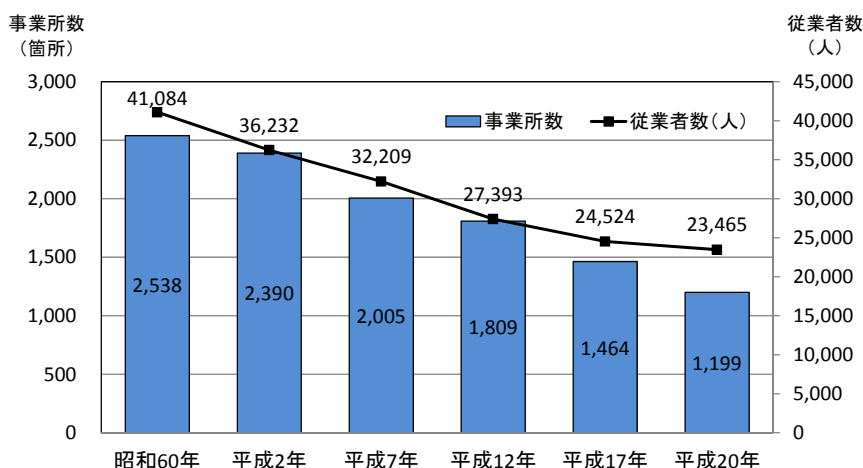
※用語定義

- 販売農家：経営耕地面積が30a以上あるか、又は、過去1年間の農産物販売金額が50万円以上ある農家
- 専業農家：世帯員中に兼業従事者が1人もいない農家
- 兼業農家：世帯員中に兼業従事者が1人以上いる農家
- 第1種兼業農家：農業所得を主とする兼業農家
- 第2種兼業農家：農業所得を従とする兼業農家

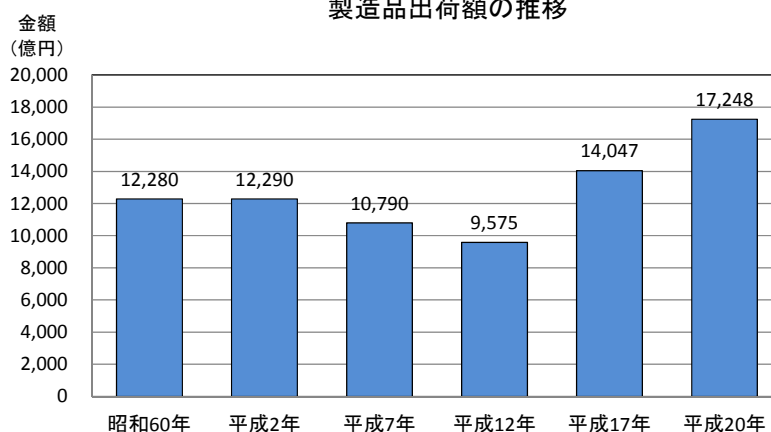
③ 工業

製造業事業所数、従業者数ともに減少傾向ですが、製造品出荷額は増加傾向にあります。1事業所あたりの従業者数（平成20年）は和歌山県平均より多く、従業員1人あたりの製造品出荷額は和歌山県平均5,548万円にくらべ和歌山市は7,350万円と高い状況にあります。

事務所数及び従業員数の推移



製造品出荷額の推移



<工業の状況>

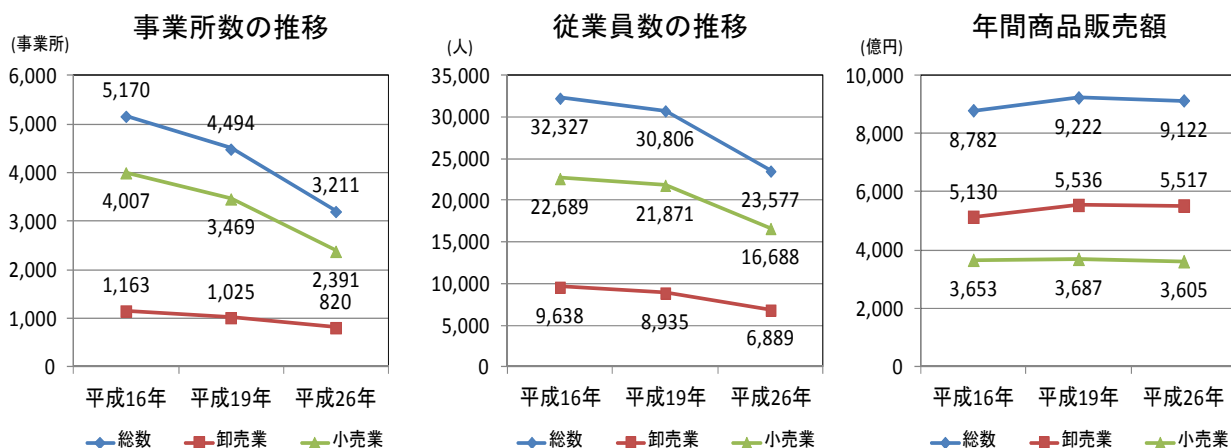
	事業所数	従業者数 (人)	1事業所あたり従業者数(人)	製造品出荷額等 (万円)	従業員1人あたり製造品出荷額 (万円)
昭和60年	2,538	41,084	16.2	122,798,686	2,989
平成2年	2,390	36,232	15.2	122,903,913	3,392
平成7年	2,005	32,209	16.1	107,900,083	3,350
平成12年	1,809	27,393	15.1	95,746,958	3,495
平成17年	1,464	24,524	16.8	140,465,143	5,728
平成20年	1,199	23,465	19.6	172,475,785	7,350
和歌山県 (平成20年)	3,752	55,690	14.8	308,976,562	5,548

資料：工業統計調査

※過年度調査値は、工業統計調査の全事業所を調査の対象とする調査結果であり、過年度調査との整合を図るため平成20年までとした。

④ 商業

平成16年から平成26年の間に、「卸売業」・「小売業」とともに、「事業所数」・「従業者数」は減少し、「年間商品販売額」は横ばい、「1事業所あたり平均売上高」は増加傾向にあります。



<商業の推移>

	平成16年				平成19年				平成26年			
	事業所数	従業者数(人)	年間商品販売額(億円)	1事業所あたり平均売上高(万円)	事業所数	従業者数(人)	年間商品販売額(億円)	1事業所あたり平均売上高(万円)	事業所数	従業者数(人)	年間商品販売額(億円)	1事業所あたり平均売上高(万円)
総数	5,170	32,327	8,782	16,987	4,494	30,806	9,222	20,521	3,211	23,577	9,122	28,408
卸売業計	1,163	9,638	5,130	44,106	1,025	8,935	5,536	54,006	820	6,889	5,517	67,282
各種商品	3	38	14	12,704	5	22	6	12,704	1	3	-	-
繊維・衣服	68	363	120	14,186	50	313	71	14,186	39	227	64	16,387
飲食料品	309	2,945	1,749	64,404	294	2,914	1,893	64,404	201	2,215	1,391	69,194
建築建材・鉱物	289	2,020	1,305	56,454	247	1,745	1,394	56,454	201	1,253	1,271	63,252
機械器具	239	2,117	1,056	46,796	185	1,828	866	46,796	181	1,502	1,116	61,637
その他	255	2,155	886	53,473	244	2,113	1,305	53,473	197	1,689	-	-
小売業計	4,007	22,689	3,653	9,116	3,469	21,871	3,687	10,627	2,391	16,688	3,605	15,076
各種商品	11	1,272	575	725,511	7	1,356	508	725,511	8	1,212	452	565,576
織物・衣類・身の回り品	587	2,180	264	4,255	507	1,887	216	4,255	352	1,690	215	6,106
飲食料品	1,295	8,978	1,182	10,638	1,086	8,946	1,155	10,638	643	6,139	973	15,136
自動車・自転車	257	1,612	519	22,462	248	1,680	557	22,462	-	-	-	-
家具・什器等	385	1,700	279	10,782	323	1,526	348	10,782	-	-	-	-
機械器具小売	-	-	-	-	-	-	-	-	356	2,249	771	21,669
無店舗小売	-	-	-	-	-	-	-	-	67	393	88	13,142
その他	1,472	6,947	833	6,953	1,298	6,476	902	6,953	965	5,005	1,105	11,447
和歌山県総数	16,739	84,904	18,558	11,086	14,841	82,554	18,661	12,574	10,568	61,877	18,242	17,262

※「-」は該当する項目の値がない、またはその他の項目に含まれる、秘匿値 等

資料：商業統計調査

(4) 土地利用

① 土地利用現況

土地利用は、商業・業務機能の集積した中心市街地、住宅及び商業の混在する周辺市街地、臨海部の工業地、郊外の住宅地及びこれら既成市街地の外縁部に広がる農地と山地になっています。

市街化区域の面積は 7,415.4ha で、都市的土地利用が 6,310.11ha (85.1%)、自然的土地利用が 1,105.29ha (14.9%) となっています。

<土地利用現況>

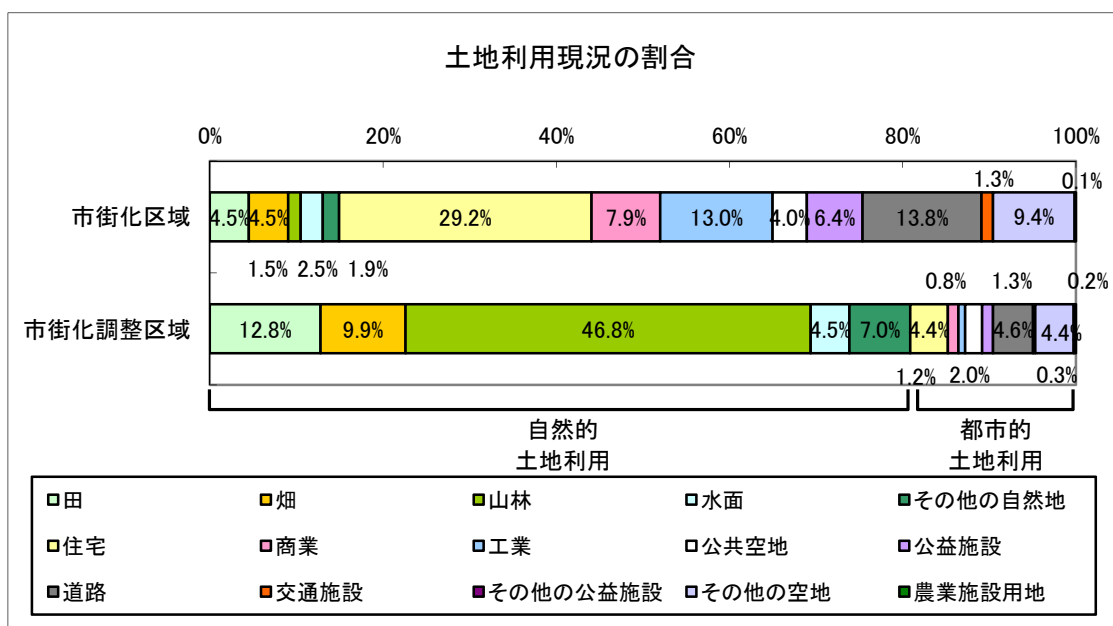
		市街化区域		市街化調整区域		都市計画区域			
		面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)		
土地利用	自然的土地利用	農地	田	334.36	4.5	1,718.42	12.8	2,052.78	9.8
			畑	336.16	4.5	1,327.28	9.9	1,663.44	8.0
			(内 生産緑地)	75.21	1.0	0.00	0.0	75.21	0.4
			(内 河川敷)	0.00	0.0	29.63	0.2	29.63	0.1
		小 計	670.52	9.0	3,045.70	22.6	3,716.22	17.8	
		山 林	108.33	1.5	6,300.52	46.8	6,408.85	30.7	
		水 面	186.43	2.5	600.18	4.5	786.61	3.8	
		その他の自然地	140.01	1.9	947.33	7.0	1,087.34	5.2	
		小 計	1,105.29	14.9	10,893.73	80.9	11,999.02	57.5	
		都市的土地利用	宅地	住 宅	2,163.57	29.2	587.89	4.4	2,751.46
	商 業			589.49	7.9	161.11	1.2	750.60	3.6
	(内 1 ha 以上)			79.70	1.1	29.59	0.2	109.29	0.5
	工 業			960.89	13.0	107.70	0.8	1,068.59	5.1
	(内 1 ha 以上)			148.37	2.0	28.18	0.2	176.55	0.8
	小 計		3,713.95	50.1	856.70	6.4	4,570.65	21.9	
	公 共 空 地		293.44	4.0	264.21	2.0	557.65	2.7	
	公 益 施 設		476.30	6.4	169.42	1.3	645.72	3.1	
	道 路		1,020.14	13.8	618.59	4.6	1,638.73	7.8	
	交 通 施 設		99.02	1.3	38.27	0.3	137.29	0.7	
その他の公益施設	0.00	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0			
その他の空地	697.38	9.4	594.44	4.4	1,291.82	6.2			
農業施設用地	9.88	0.1	33.24	0.2	43.12	0.2			
小 計	6,310.11	85.1	2,574.87	19.1	8,884.98	42.5			
合 計	7,415.40	100.0	13,468.60	100.0	20,884.00	100.0			
工 業 専 用 地 域	747.80	10.1	0.00	0.0	747.80	3.6			
臨港地区 (無分区、工専以外)	43.94	0.6	0.00	0.0	43.94	0.2			
砂防・急傾斜地崩壊危険・地すべり防止区域	31.37	0.4	103.12	0.8	134.49	0.6			
可 住 地	4,073.67	54.9	10,640.08	79.0	14,713.75	70.5			
非 可 住 地	3,341.73	45.1	2,828.52	21.0	6,170.25	29.5			

非可住地

- ①水面、その他の自然地、公共、公益、道路、交通、その他の公益施設
- ②工業専用地域 (公共・公益施設、道路、交通施設以外の面積)
- ③臨港地区 (①、②にある土地利用以外の面積)
- ④1 ha以上の商業、工業施設
- ⑤砂防・急傾斜地崩壊危険・地すべり防止区域 (①、④にある土地利用以外の面積)
- ⑥生産緑地
- ⑦河川敷内の農地

(平成 28 年 3 月現在)

<土地利用現況の割合>



(平成28年3月現在)

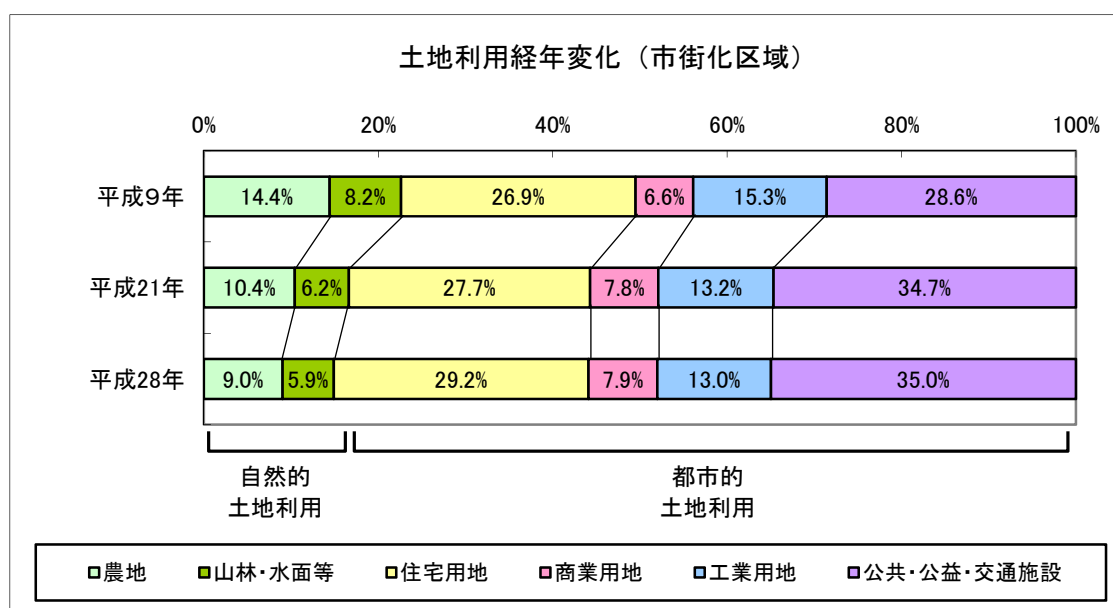
② 平成9年との比較（市街化区域）

平成9年と平成28年における土地利用の変化についてみると、自然的土地利用は平成9年の22.6%から平成28年の14.9%～7.7%減少し、それに伴い都市的土地利用は平成9年の77.4%から平成28年の85.1%～7.7%増加しています。

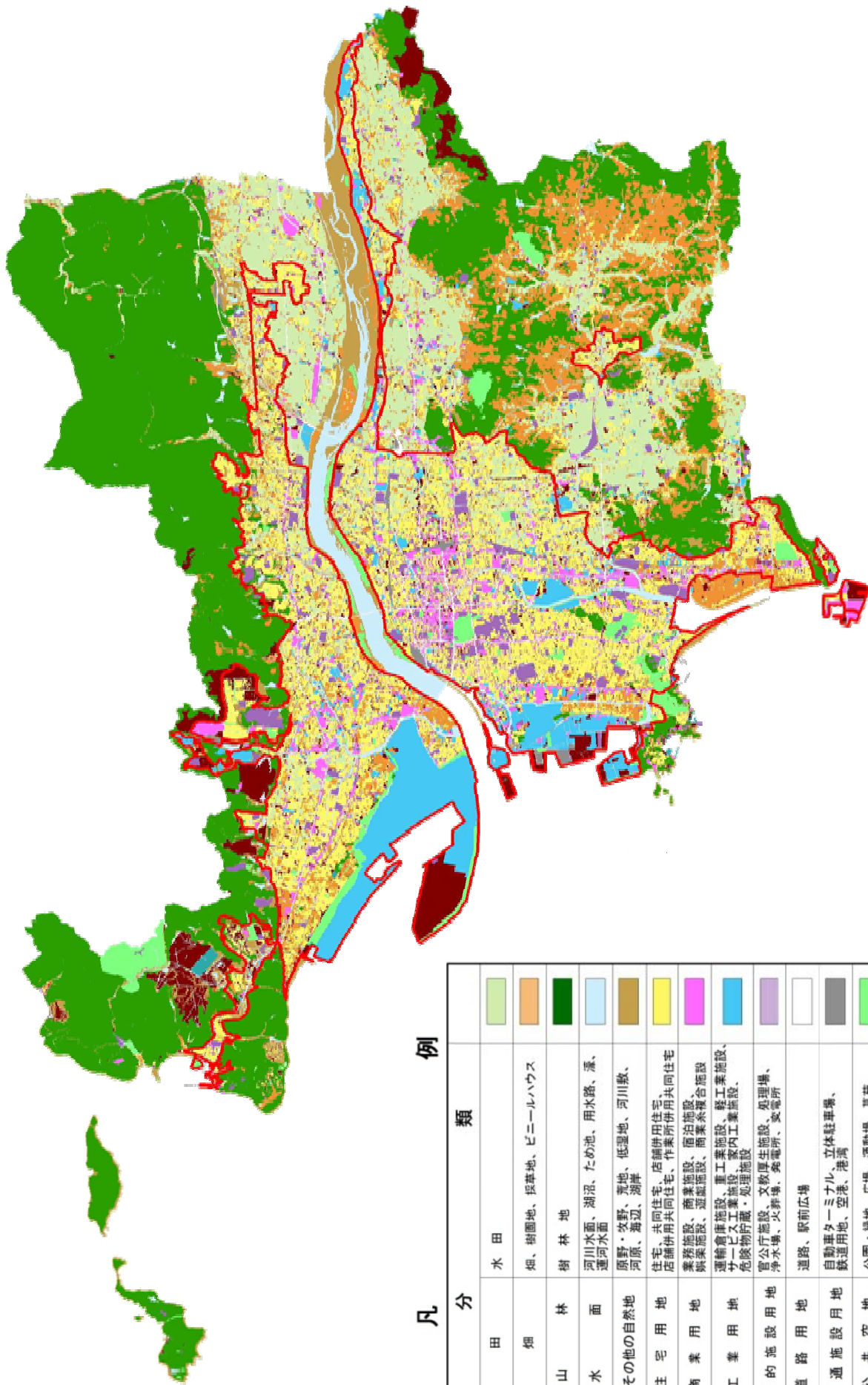
自然的土地利用の内訳では、農地（田・畑）が5.4%減少、山林・水面等が2.3%減少しています。

都市的土地利用の内訳では、住宅用地が2.3%、商業用地が1.3%、公共・公益・交通施設用地が6.4%増加しており、工業用地が2.3%減少しています。

<土地利用現況（経年変化）>



(平成28年3月現在)



土地利用現況図

(平成28年3月現在)

凡 例

分 類	類
田	水田
畑	畑、樹園地、牧草地、ビニールハウス
山 林	樹林地
水 面	河川水面、湖沼、ため池、用水路、溪、河原、海辺、湖畔
その他の自然地	原野、穴野、荒地、低湿地、河川敷、
住 宅 用 地	住宅、共同住宅、店舗併用住宅、店併用共同住宅
商 業 用 地	業務施設、商業施設、宿泊施設、娯楽施設、遊園施設、商業複合施設
工 業 用 地	運輸倉庫施設、重工業施設、軽工業施設、サード工業施設、倉内工業施設、危険物貯蔵・処理施設
公 的 施 設 用 地	官公庁施設、文藝厚生施設、処理場、浄水場、火葬場、葬場、発電所
道 路 用 地	道路、駅前広場
交 通 施 設 用 地	自動車ターミナル、立体駐車場、鉄道用地、空港、港湾
公 共 空 地	公園・緑地、広場、運動場、墓苑
農 業 用 施 設 用 地	農業用倉庫、温室、船小屋、農林漁業用作業場
そ の 他 の 空 地	改変工事中の土地、未利用地、平面駐車場、ゴルフ場
市 街 化 区 域 界	

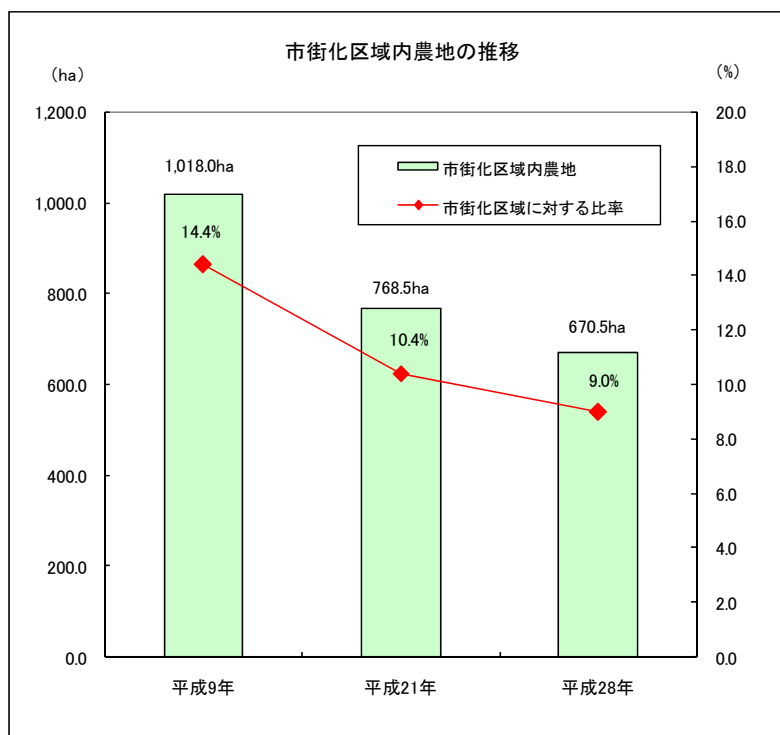
③ 市街化区域内農地の状況

市街化区域内農地は、平成28年現在 670.5 ha で、市街化区域面積 7,415.4ha に対し約 9.0% となっています。平成9年からの推移をみると、全体で平成9年の 1,018.0ha から 347.5ha 減少しています。

市街化区域内農地の分布は、市街化区域の東部から東南部及び北西部に多くみられます。

<市街化区域に占める農地の割合>

	市街化区域	農地	割合 (%)
平成9年	7,079.0	1,018.0	14.4
平成21年	7,404.0	768.5	10.4
平成28年	7,415.4	670.5	9.0



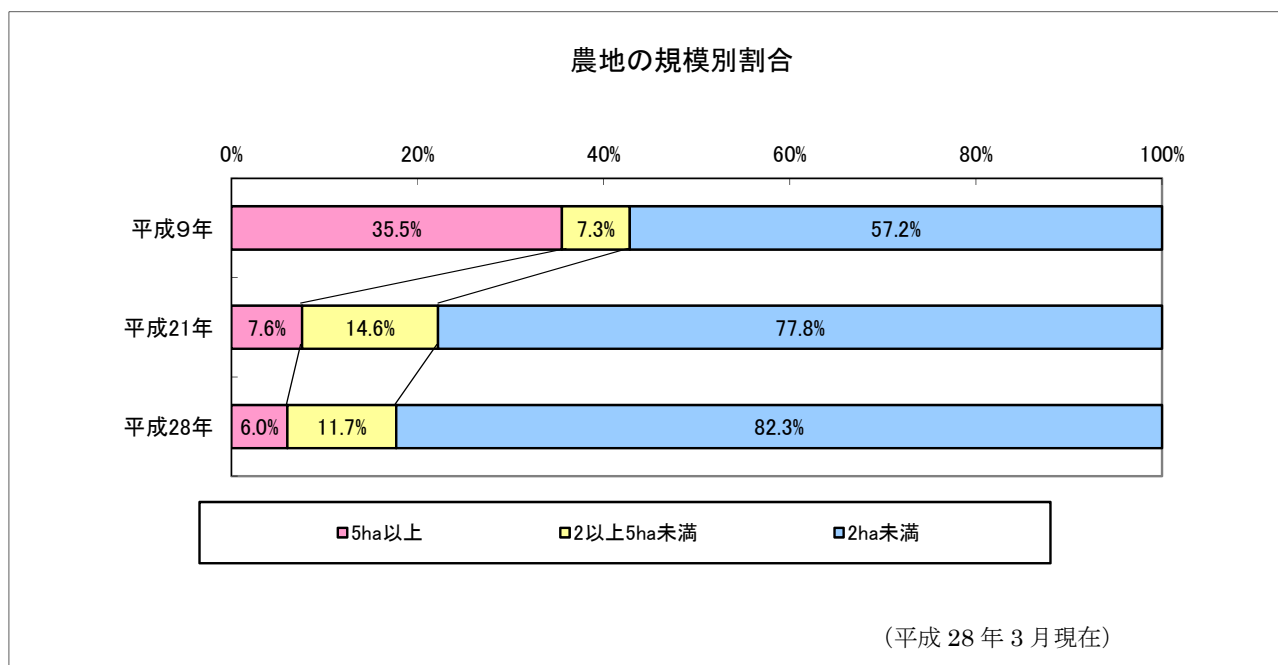
(平成28年3月現在)

④農地の規模別状況

和歌山市において市街化区域内で2ha～5ha未満の農地は、78.2ha（27箇所）、5ha以上の農地は、40.3ha（5箇所）残存しており、市街化区域内農地670.5haに対して大規模な農地5ha以上の割合は、6.0%になります。

平成9年からの推移をみると、平成28年現在までに農地が347.5ha減少する中で、5ha以上の農地が321.5ha減少（平成9年361.8ha）と全体の約93%を占めています。大規模な農地の細分化等により、2ha～5ha未満の農地は3.7ha増加（平成9年74.5ha）し、2ha未満の農地は29.7ha減少（平成9年581.7ha）しています。

農地の市街化が進行していますが、大規模な農地が細分化され、小規模な農地が散在するようになっています。

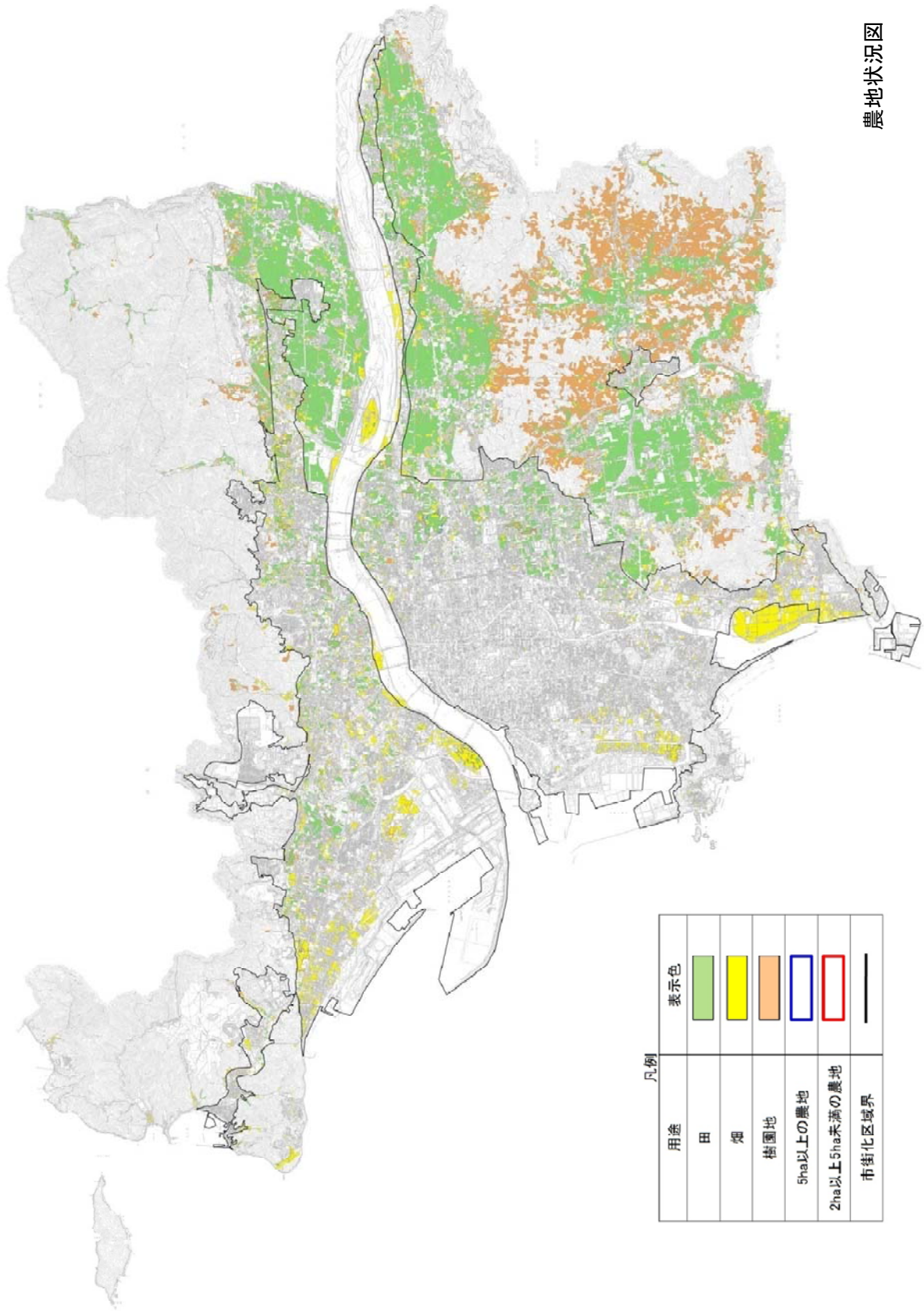


<農地規模別状況>

(単位：ha)

規模別	平成9年	平成21年	平成28年
5ha以上	361.8	58.2	40.3
2～5ha未満	74.5	112.1	78.2
2ha未満	581.7	598.2	552.0
合計	1018.0	768.5	670.5

(平成28年3月現在)



農地状況図

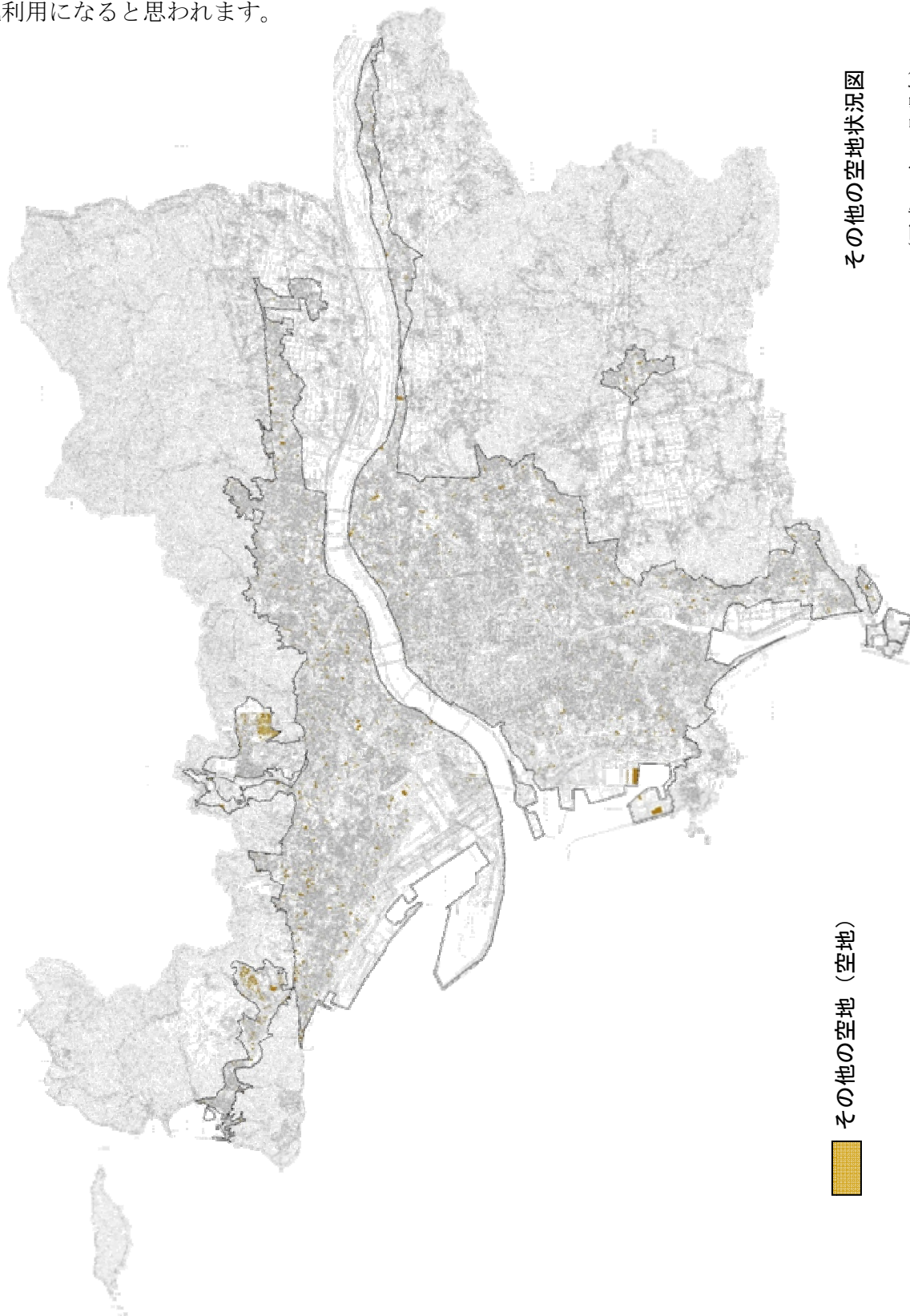
(平成28年3月現在)

⑤その他の空地状況（空地）

和歌山市の市街化区域内において、その他の空地は、青空駐車場、造成中・工事中、ゴルフ場、空地等があり、その内空地については、今後、土地利用が図られる土地であり、空地の面積（207.57ha）については、全体（697.38ha）の29.8%になります。

2ha以上の大規模な空地は見当たりませんが、一宅地の空地が多くみられます。

また、造成後の空地については、開発が進行しているところが多く、今後は住宅等の土地利用になると思われます。



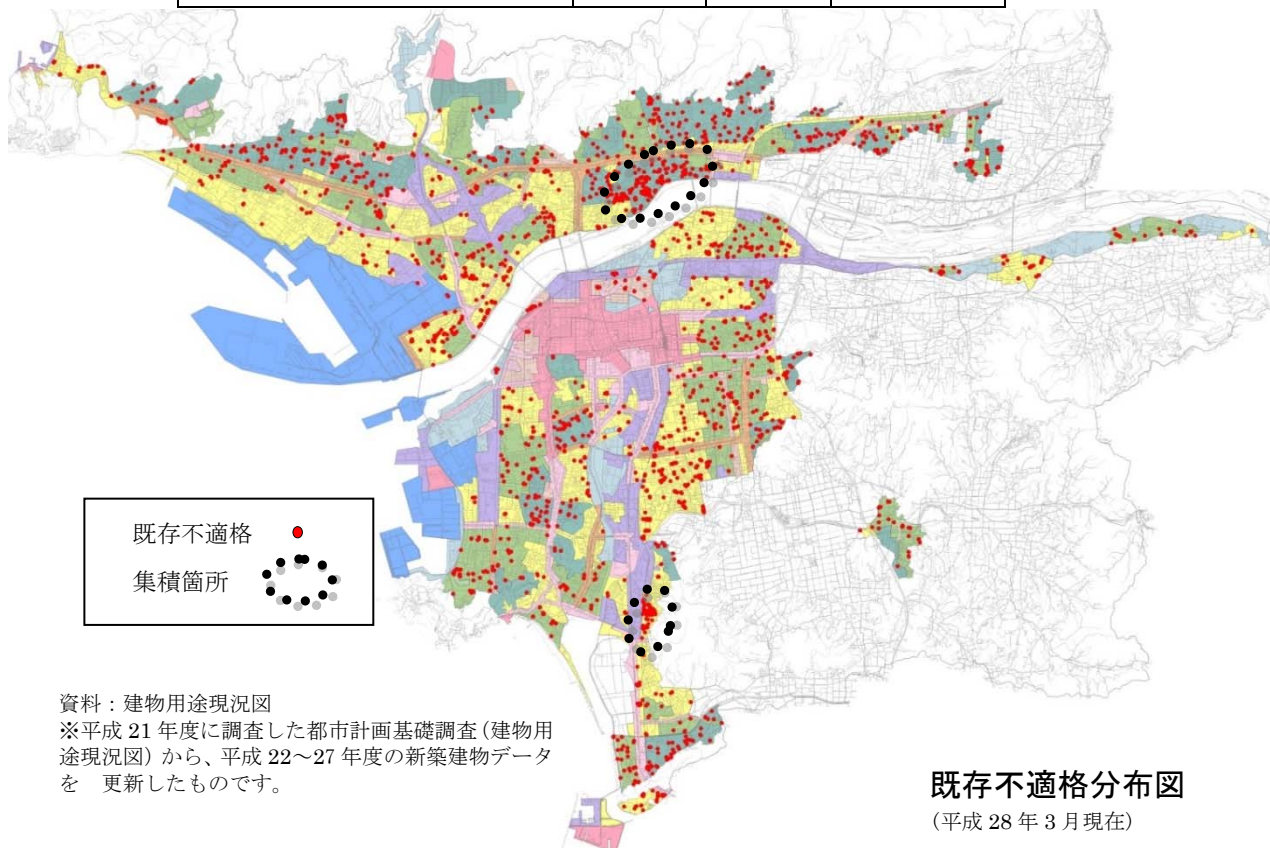
(5) 建 物

和歌山市において市街化区域内の既存不適格建物は、全体の1.4% (2,243棟) となります。また、第一種低層住居専用地域では、3.3% (803棟) で日用品等の店舗が特に多く占めています。

特に、楠見・有功地区の西脇山口線より南側には店舗や事務所等、JR紀三井寺駅の東側周辺には小規模な工場等が多く分布しています。

< 不適格建築物の状況 >

用途地域名称	既存不適格建築物		建物棟数
	棟数	割合	
第一種低層住居専用地域	803	3.3 %	24,562
第二種低層住居専用地域	9	9.9 %	91
第一種中高層住居専用地域	613	1.8 %	33,853
第二種中高層住居専用地域	12	4.2 %	284
第一種住居地域	652	1.3 %	48,793
第二種住居地域	86	1.3 %	6,373
準住居地域	41	0.8 %	4,976
近隣商業地域	6	0.1 %	9,160
商業地域	0	0.0 %	8,787
準工業地域	11	0.1 %	11,101
工業地域	8	0.1 %	6,108
工業専用地域	2	0.1 %	2,028
合計	2,243	1.4 %	156,116



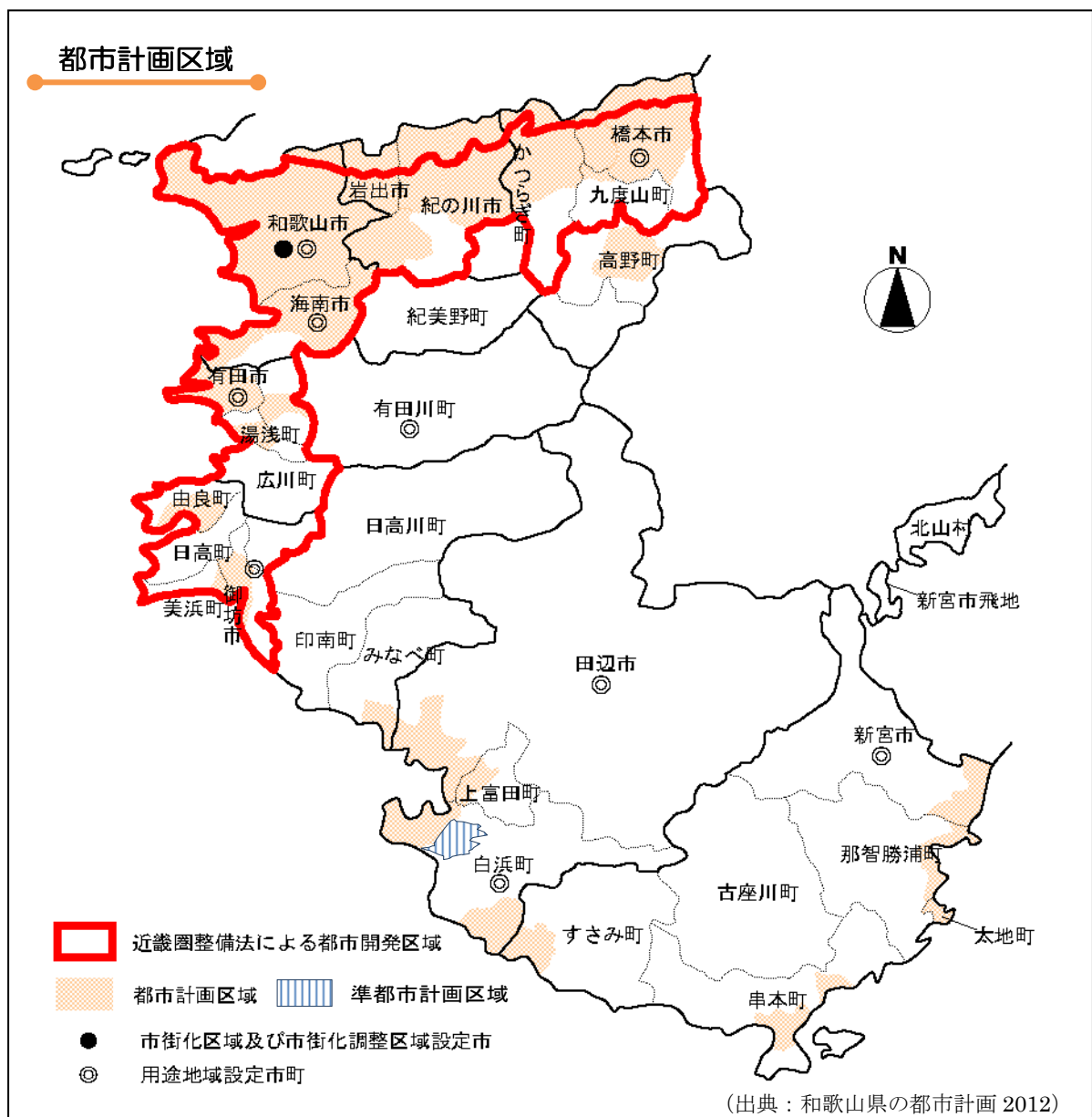
(6) 都市計画

① 都市計画区域

都市計画区域とは、都市計画を策定する区域で、健康で文化的な都市生活や機能的な都市活動を確保するために、都市計画法、その他の法令の規制を受ける土地の範囲であり、自然的、社会的条件等を勘案し、一体の都市として総合的に整備、開発及び保全する必要がある区域について定められています。

和歌山県では、23 市町に対して 25 の都市計画区域が定められています。また、白浜町に準都市計画区域が指定されています。

都市計画	都 市 名 (都市計画区域名)
区域区分あり	和歌山市 (和歌山)
非線引き (用途地域あり)	海南市 (海南)・橋本市 (橋本)・有田市 (有田)・御坊市 (御坊)・田辺市 (田辺)・新宮市 (新宮)・有田川町 (吉備)・白浜町 (白浜)
非線引き (用途地域なし)	橋本市 (高野口)・美浜町 (御坊)・紀の川市 (紀の川)・岩出市 (岩出)・かつらぎ町 (かつらぎ)・九度山町 (九度山)・高野町 (高野)・湯浅町 (湯浅)・由良町 (由良)・みなべ町 (南部)・白浜町 (日置川)・上富田町 (上富田)・すさみ町 (すさみ)・串本町 (串本・古座)・那智勝浦町 (那智勝浦)・太地町 (太地)



② 区域区分

昭和43年新都市計画法の制定に伴い、和歌山市では、和歌山海南都市計画区域として隣接する海南市とともに昭和46年に区域区分(線引き)制度を導入しました。導入以降、積極的に都市整備を進める市街化区域と、市街化を抑制し優良な農地や自然を保全する市街化調整区域とに分け、無秩序な市街化の拡大による環境悪化を防止するとともに、効率的な公共施設を配置するなど良好な市街地の整備を行ってきました。

また、平成12年都市計画法改正では、大都市圏(首都圏整備法による「既成市街地」「近郊整備地帯」、近畿圏整備法による「既成都市区域」「近郊整備区域」、中部圏開発整備法による「都市整備区域」及び政令指定都市)以外の地域において、区域区分の要否の検討を行うものとされたことから、和歌山海南都市計画区域についても要否の検討が行われました。その結果、平成16年に海南市は、区域区分を廃止し、和歌山市は区域区分制度を継続して、和歌山市単独の和歌山都市計画区域となり今日に至っています。

<市街化区域の変遷>

和歌山市の市街化区域の変化

種別	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	総評
総人口 人	400,802	401,352	396,553	393,885	386,551	375,591	370,364	人口は継続して減少しています。 (30年間で7.6%減少)
総面積 ha	20,673	20,741	20,751	20,923	21,023	21,024	21,025	公有水面の埋立があり、面積は増加しました。
市街化面積 ha	6,240	6,507	7,031	7,079	7,404	7,404	7,404	市街化区域拡大により市街化区域は30年間に18.7%増加しました。
%	30.18%	31.37%	33.88%	33.83%	35.22%	35.22%	35.22%	市街地は拡大傾向にあります。
市街化人口 人	339,305	337,187	350,157	347,347	341,209	329,390	320,890	市街化人口は平成2年をピークに減少しています。 (特にH17年の落ち込みが激しい)
%	84.66%	84.01%	88.30%	88.18%	88.27%	87.70%	86.64%	90%に近い値を示しており、区域区分の効果が現れています。
市街化人口密度 人/ha	52.0	51.8	49.8	49.1	46.1	44.5	43.3	市街化人口は低密度化の傾向にあります。

資料：国勢調査

市街化区域の拡大の変遷

種別	決定日	都市計画区域 (ha)	市街化区域 (ha)	市街化調整区域 (ha)	人口 (人)	変更の概要
当初決定	S46.6.5	20,566	6,240	14,326	374,852	
第1回見直し	S55.12.27	20,673	6,507	14,166	400,802	つつじが丘、善明寺、神前等を市街化区域に編入しました。
第2回見直し	H2.3.27	20,751	7,031	13,720	396,553	和大・ノース、六十谷、直川、紀伊、川永、和佐、小倉等を市街化区域に編入しました。
保留ルーム解除	H5.1.21	20,865	7,079	13,786	395,882	マリーナシティを市街化区域に編入しました。
第3回見直し	H12.6.13	21,023	7,404	13,619	386,551	梅原開発地区、北港埋立地、南港埋立地を市街化区域に編入しました。
第4回見直し	H23.11.29	21,025	7,415.4	13,609.6	367,470	加太港、和歌山大学周辺等を市街化区域に編入しました。

<都市計画決定状況>

土地利用関連

名 称	面積	備 考
都市計画区域	20,884.0ha	行政区域（公有水面埋立を含む）
市街化区域	7,415.4ha	公有水面埋立一部含む
市街化調整区域	13,468.6ha	
防火地域	41.4ha	
準防火地域	461.1ha	
風致地区	379.0ha	6地区
臨港地区	848.4ha	和歌山下津港臨港地区（840ha）、加太港地区（8.6ha）
駐車場整備地区	289.5ha	和歌山市中心部駐車場整備地区
特別用途地区	667.0ha	準工業地域に大規模集客施設制限地区
高度利用地区	3.4ha	美園町三丁目（0.6ha）、北汀丁（0.3ha）、 友田町四丁目（0.4ha）、和歌山市駅前（2.1ha）
特別緑地保全地区	2.2ha	古屋特別緑地保全地区
生産緑地地区	75.21ha	261箇所
地区計画	77.1ha	野崎地区（5.7ha）、和歌山大学前駅周辺地区（66.8ha） 直川地区（2.7ha）、直川地区(2)（1.9ha）

(平成28年3月現在)

用途地域

用途地域	容積率(%) / 建ぺい率(%)		面積 (ha)		構成比 (%)	
第一種低層住居専用地域	50 / 30	100 / 50	89.3	1,045.0	1.2	14.1
第二種低層住居専用地域	100 / 50		4.6		0.1	
第一種中高層住居専用地域	200 / 60		1,292.1		17.4	
第二種中高層住居専用地域	200 / 60		15.7		0.2	
第一種住居地域	200 / 60		1,786.0		24.1	
第二種住居地域	200 / 60		222.3		3.0	
準住居地域	200 / 60		258.4		3.5	
近隣商業地域	200 / 80	300 / 80	35.0	363.6	0.5	4.9
商業地域	400 / 80	600 / 80	323.2	66.8	4.3	0.9
準工業地域	200 / 60		667.0		9.0	
工業地域	200 / 60		420.5		5.7	
工業専用地域	200 / 60		825.9		11.1	
市街化区域総面積			7,415.4		100.0	

(平成28年3月現在)

都市施設

名称	面積等	備考
道路	139,690m	32 路線
駐車場	3.482ha	10 箇所
公園	265.884ha	57 箇所
緑地	831.07ha	4 箇所
広場	0.24ha	和歌山駅西口地下広場
公共下水道	6,087ha	3 処理区
汚物処理場・ごみ焼却場・ごみ処理場	3.4ha	青岸清掃センター
市場	13.2ha	中央卸売市場
火葬場	1.9ha	斎場
学校	9.4ha	和歌山県立医科大学

(平成 28 年 3 月現在)

土地区画整理事業

地区名	事業主体	都市計画決定（変更含む）	
		面積	年月日
戦災復興 (9 工区)	知事	463.8ha	S21.10.3 戦復告示第 190 号
御膳松	県	25.5ha	S16.12.22 内告示第 669 号 S26.2.17 建告示第 669 号 S54.3.30 県告示第 157 号
新南第二	市	13.5ha	S33.7.4 建告示第 1230 号
高松	知事	33.0ha	S36.3.31 建告示第 900 号
東和歌山	市	161.9ha	S42.12.9 建告示第 4103 号 H9.12.12 県告示第 1101 号
和歌山 東部第一	市	0ha (50.2ha)	H6.11.22 県告示第 772 号 H9.12.12 県告示第 1101 号 (廃止) H14.4.5 県告示第 390 号
計		697.71ha	

(平成 28 年 3 月現在)

市街地再開発事業

名称	場所	面積
和歌山都市計画けやき大通り 第一種市街地再開発事業	和歌山市美園町三丁目の一部	約 0.6ha
和歌山都市計画北汀丁地区 第一種市街地再開発事業	和歌山市北汀丁、南汀丁の各一部	約 0.3ha
和歌山都市計画友田町四丁目地区 第一種市街地再開発事業	和歌山市友田町四丁目の一部	約 0.4ha
和歌山都市計画和歌山市駅前地区 第一種市街地再開発事業	和歌山市杉ノ馬場一丁目、杉ノ馬場二丁目、東蔵前丁、西蔵前丁、屏風丁の各一部	約 1.9ha

(平成 28 年 3 月現在)

(7) 道路・交通

① 道路

和歌山市と大阪、紀北方面、紀南方面を結ぶ広域幹線道路は、高規格幹線道路の阪和自動車道や京奈和自動車道、地域高規格道路の第二阪和国道や一般国道、主要地方道があります。

都市計画道路は、東西方向に走る南港山東線、西脇山口線、市駅和佐線、今福神前線、和歌山港鳴神山口線、南北方向に走る有本中島線、松島本渡線、貴志琴ノ浦線、本町和歌浦線、環状に走る新和歌浦中之島紀三井寺線等、市街地を中心に計画しており、整備率は約67%（H28.4現在）となっています。

② 公共交通

鉄道は、JR和歌山駅を中心にJR阪和線、JR紀勢本線、JR和歌山線、和歌山電鉄貴志川線が連絡し、南海電鉄和歌山市駅を中心に南海本線、南海加太線、南海和歌山港線、JR紀勢本線が連絡しており、他圏域及び市内を連絡しています。

バス網は、JR和歌山駅と南海和歌山市駅を主要ターミナルとして、路線バスが市域及び周辺市と連絡し、路線バスが廃止となった紀三井寺団地では、地域住民が主体となって地域バスを運行しています。また、関西空港へリムジンバス、横浜・東京上野・東京ディズニーランド方面等へ夜間高速バスが運行しています。

海上交通としては、和歌山港と徳島港を結ぶ南海四国ライン（南海フェリー）が運航しています。

(8) 公園・緑地

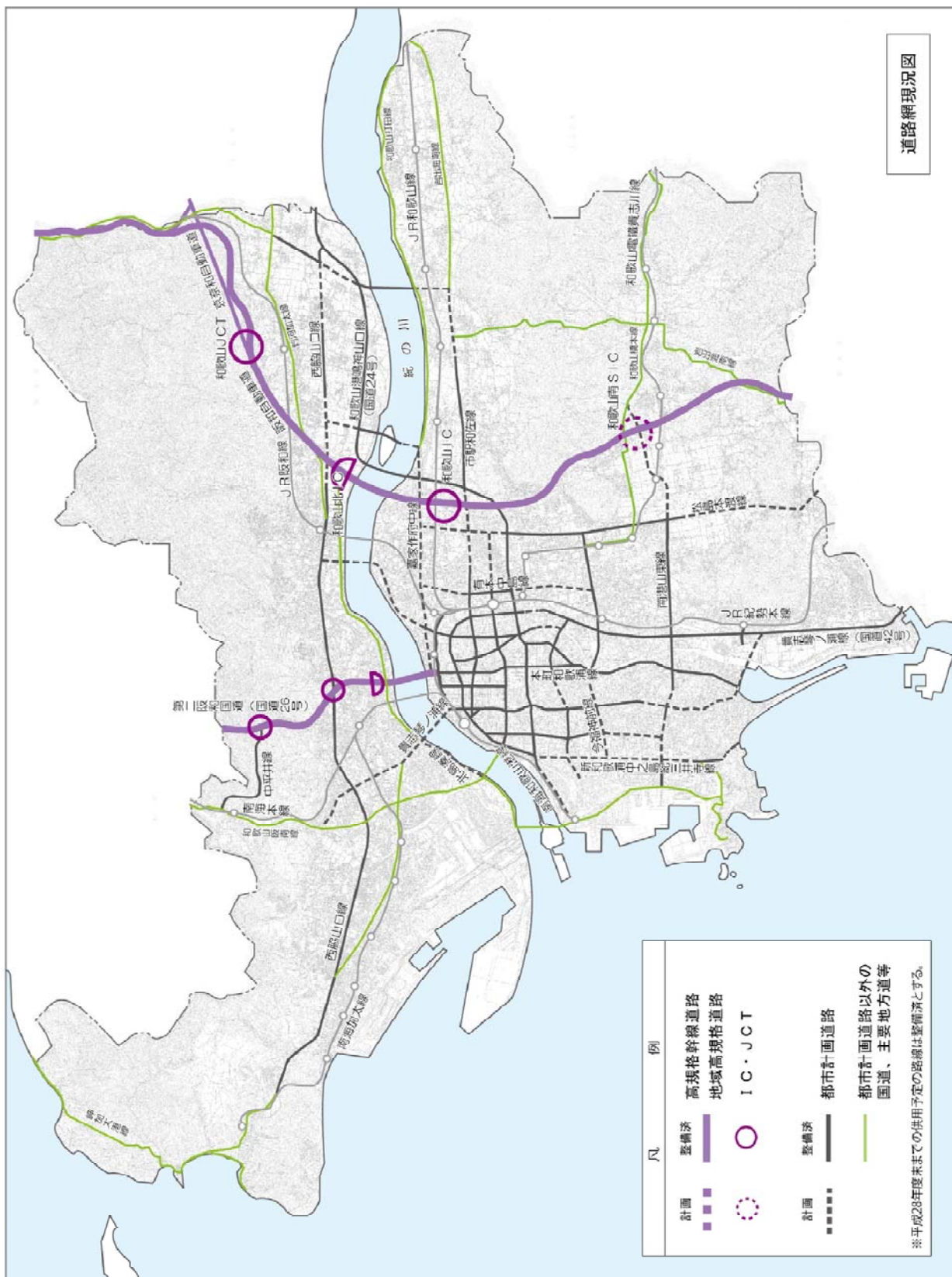
市街地を中心に街区公園、近隣公園、地区公園等の住区基幹公園、梅原・磯の浦に総合公園、今福・紀三井寺に運動公園、和歌浦・秋葉山などに風致公園を、その他に和歌山公園・和歌山交通公園の特殊公園及び河西緩衝緑地、紀の川緑地等を都市計画公園及び緑地として計画決定しています。

平成28年3月時点では、都市計画決定した公園のうち、街区公園については32箇所、約10.4haの計画のうち約86%（約8.9ha）が整備済みですが、都市計画公園全体の整備率は約45%となっています。都市計画緑地面積は約104.4ha、その整備率は約13%となっています。

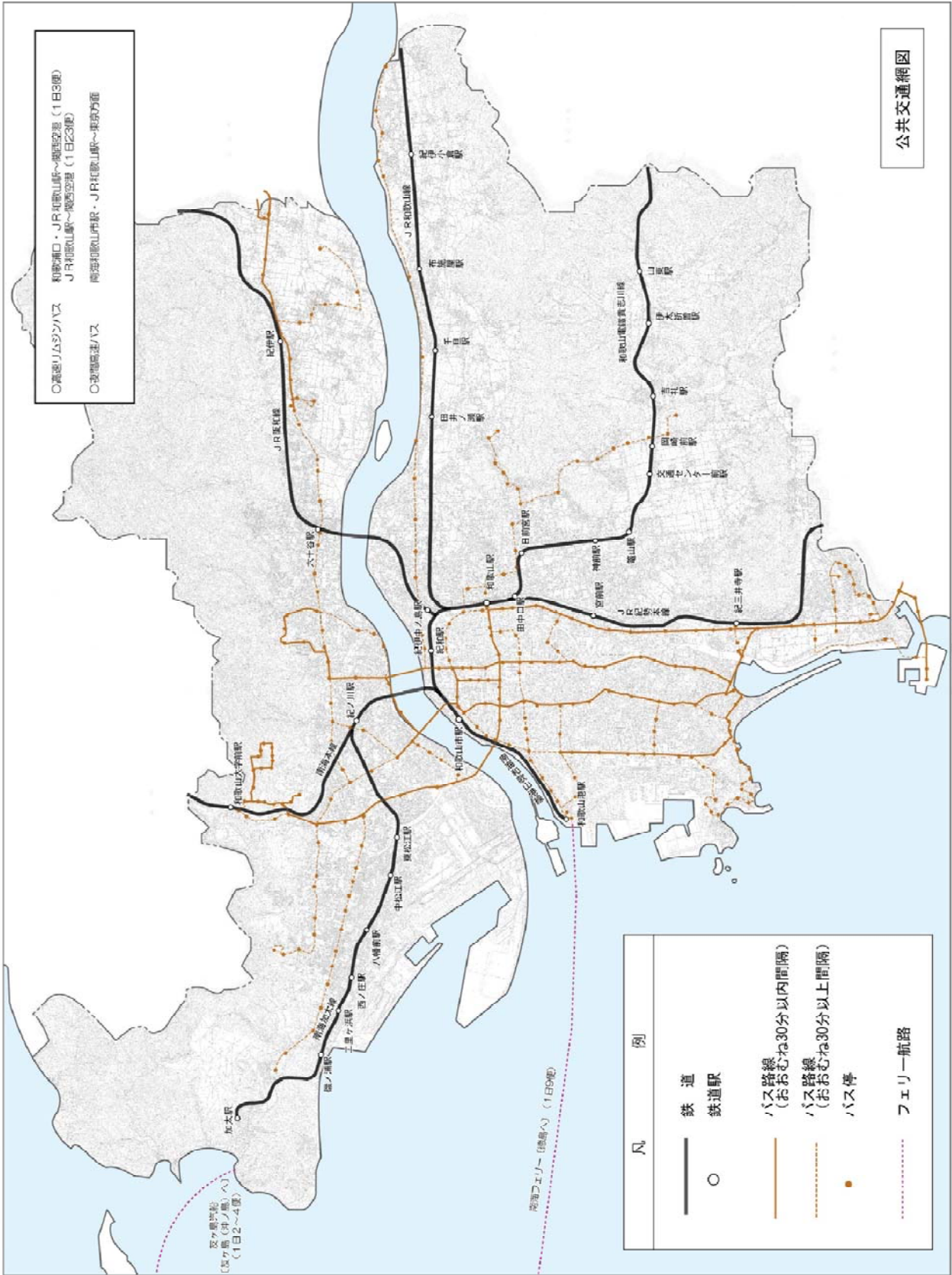
都市計画公園・緑地以外では、海岸部の瀬戸内海国立公園や北部・東南部に緑豊かな山地部があり、森林公園、紀伊風土記の丘、四季の郷公園などがあります。その他に和歌山市が整備した公園や児童遊園、開発許可により設置された公園等が多数あります。

(9) 公共施設

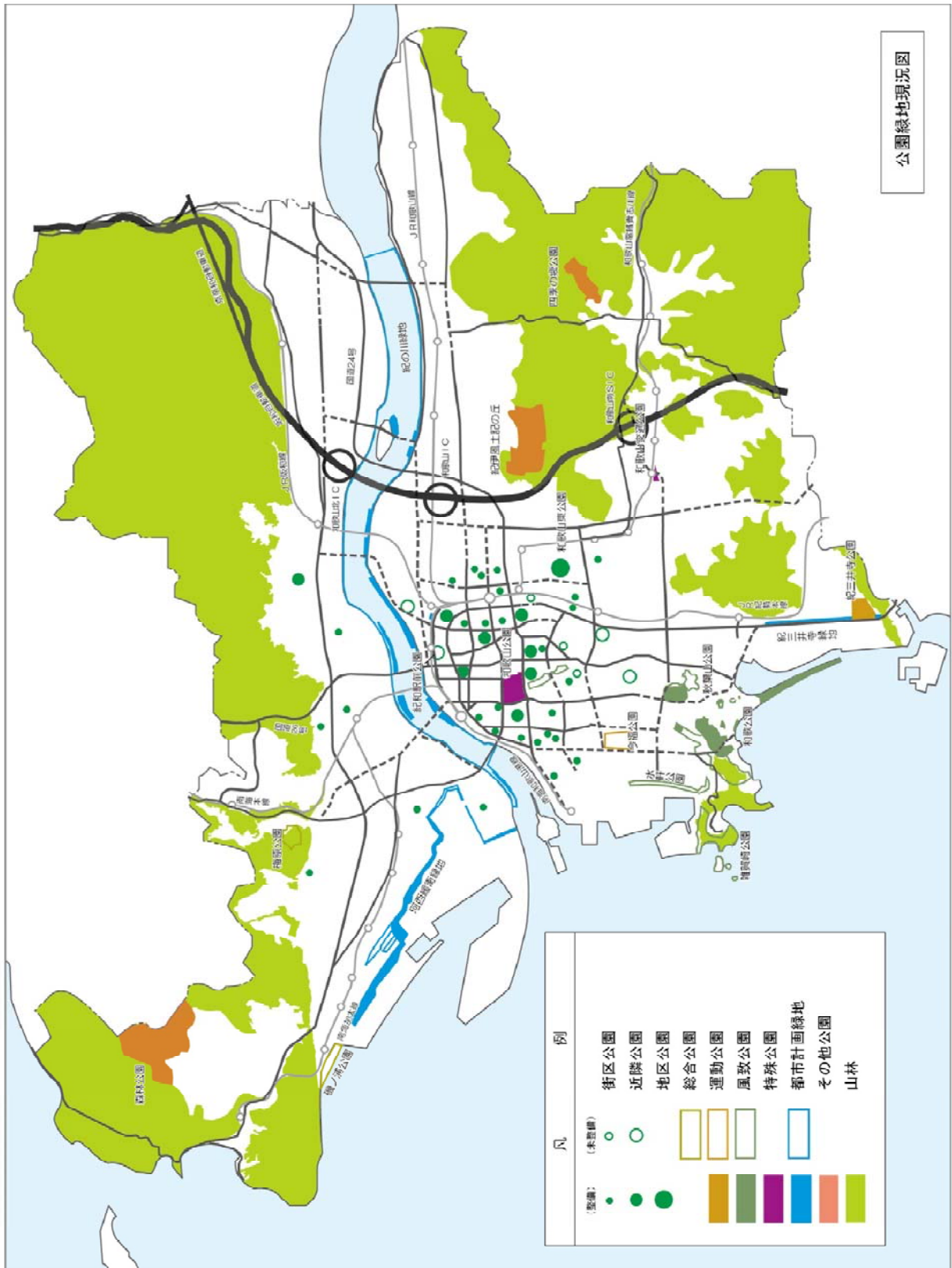
公共施設は、市役所、市民会館、市民図書館及びサービスセンター、コミュニティセンター等の「市関係施設」、地方裁判所、労働局、県庁、警察署等の「国・県関係施設」、大学、高等学校等の「教育施設」、病院・保健所等の「医療施設」があります。



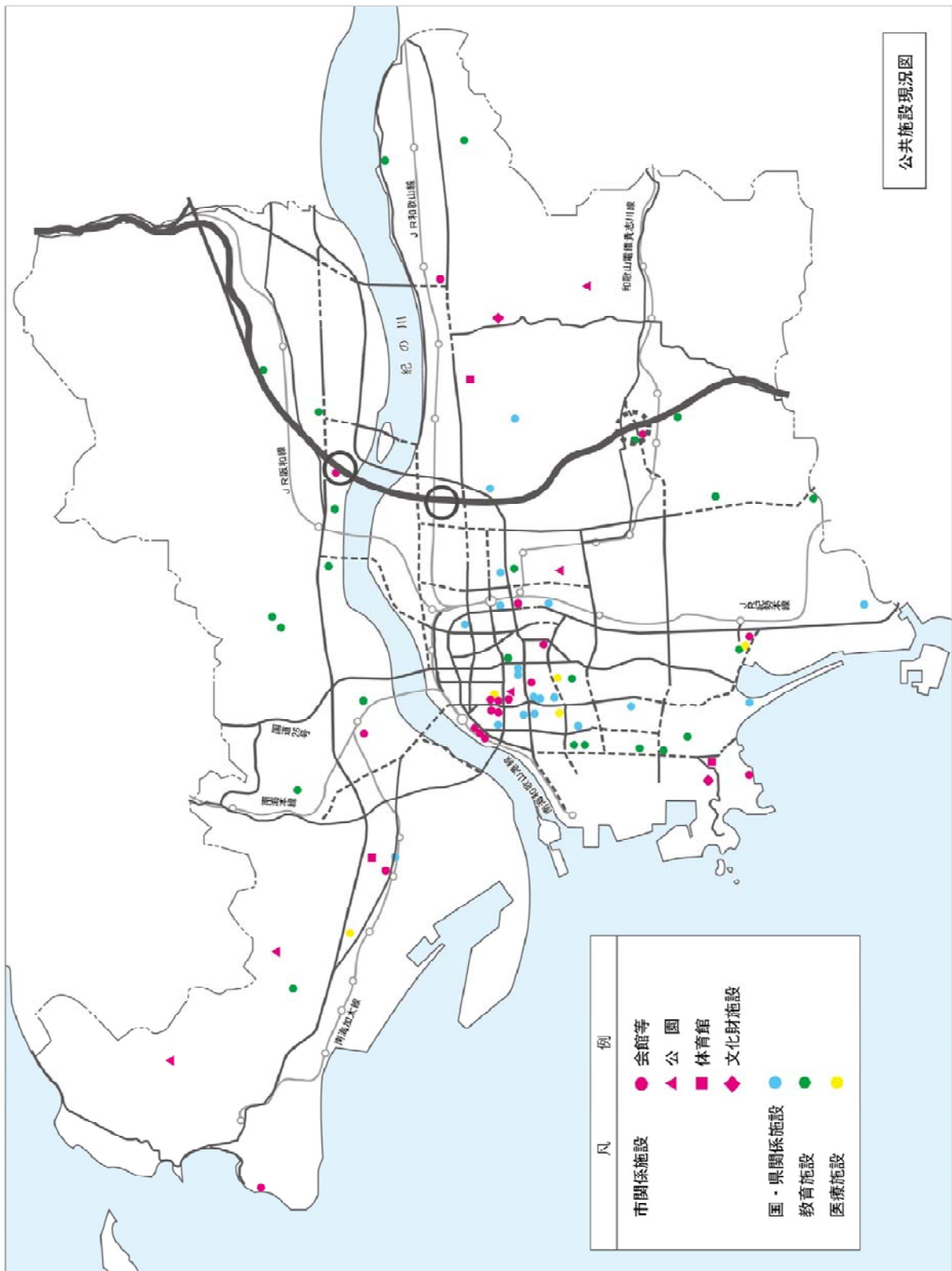
(平成 28 年 3 月現在)



(平成28年4月現在)



(平成28年3月現在)



(平成28年3月現在)

2. 市民アンケート

(1) 市民意向調査（アンケート）について

前回計画では、計画策定の平成21年7月に市民意向調査が実施されています（結果の概要は（2）市民意向を参照）。

改定計画では、最新の市民意向調査「市政世論調査（平成27年度）」及び「和歌山市まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査結果（平成27年度）」による「和歌山市の取り組みに対しての満足度・重要度」及び「将来の和歌山市のイメージ」の調査結果をもとに、市民意向を把握しました。

	配布数	回収数（回収率）
市政世論調査 平成27年度 (平成23年度)	2,000 (2,000)	1,038 (51.9%) (962 (48.1%))
和歌山市まち・ひと・しごと創生 に関するアンケート調査	3,000	976 (32.5%)

※「市政世論調査」は過年度との結果比較のため、平成23年度調査も用いています。

(2) 市民意向

前回計画における市民意向調査（アンケート）結果の概要

■調査の概要

アンケート調査は、本市に居住している18歳以上の市民の皆さんの中から2,000人を無作為に抽出し、郵送による調査票の配布・回収方式で、平成21年7月に実施しました。回収票は843票、回収率は42.4%でした。

■調査結果

●現在住んでいる地域の生活環境の評価（満足度）

お住まいの地域での生活に関する18項目の満足度についてお聞きしたところ、全項目平均の満足意向は2割強（全項目平均：満足4%+やや満足19%）で、いずれの項目も不満足向が高い結果となっています。

全体的に満足度は低いものの、「身近な生活道路の整備」「国道や高速道路などの幹線道路の整備」に関しては、「満足」と「やや満足」の合計がいずれも4割強となっており、満足意向が他の項目と比べ高くなっています。

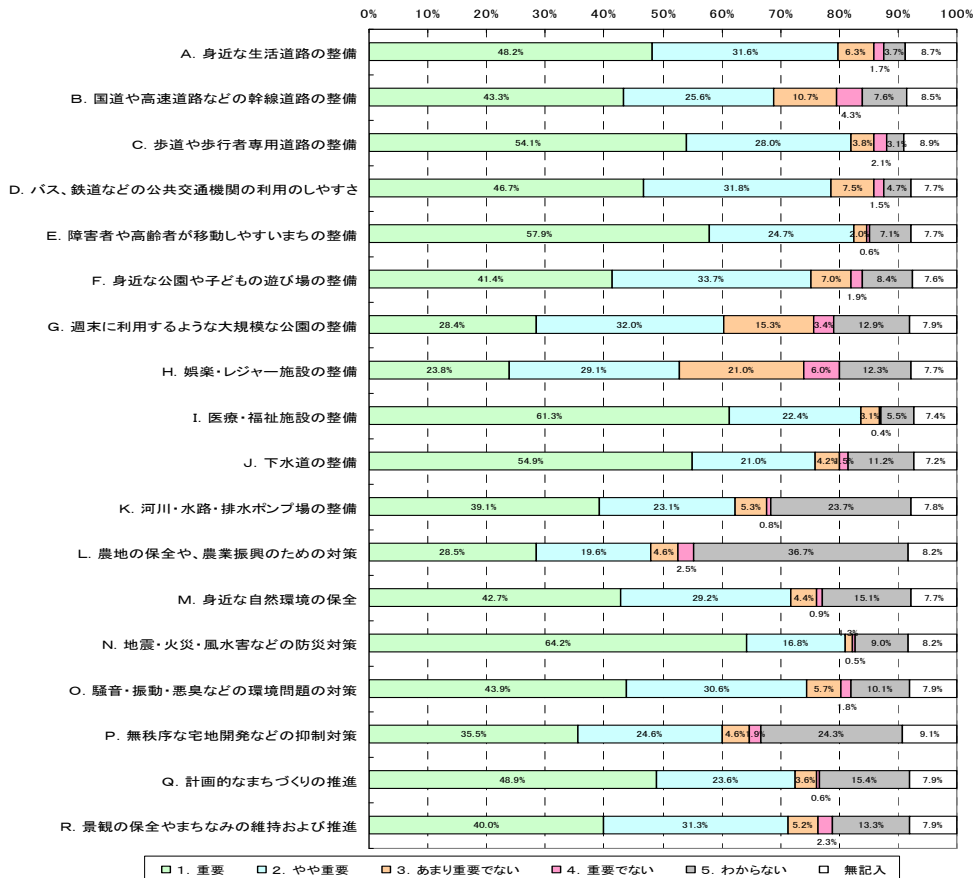
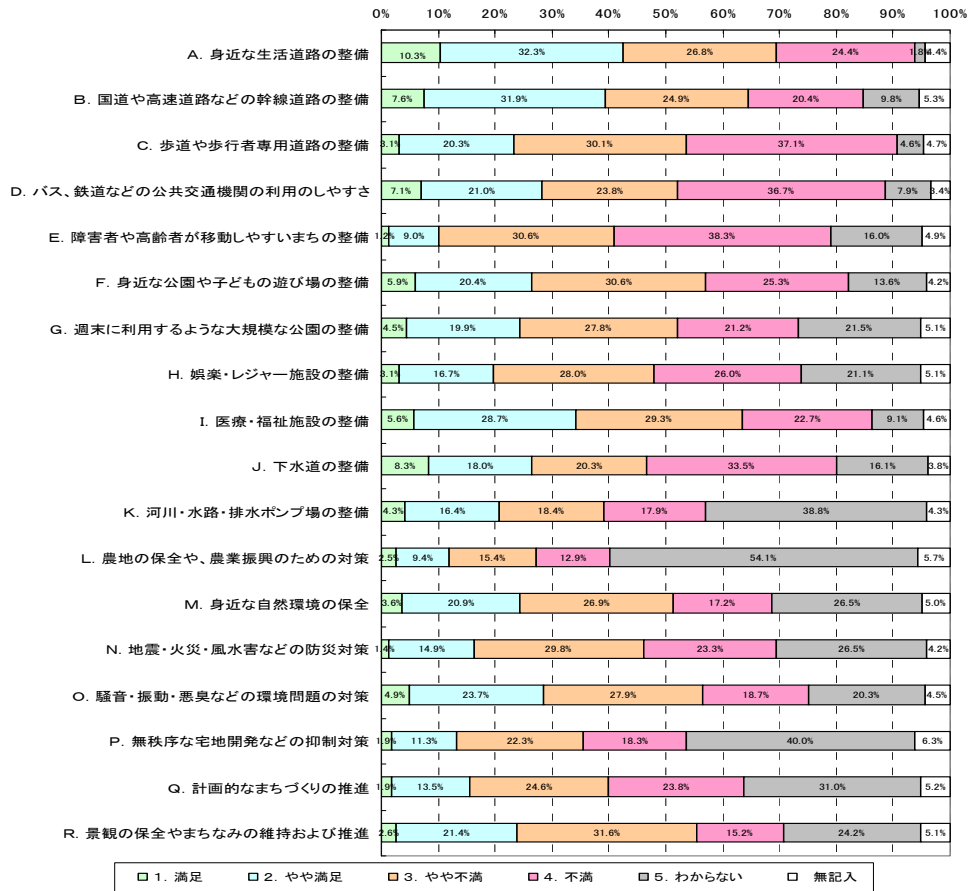
逆に「障害者や高齢者が移動しやすいまちの整備」「歩道や歩行者専用道路の整備」に関しては、「やや不満」と「不満」の合計が7割弱で不満足向の割合が高くなっており、今後の対策を検討する必要があります。

●現在住んでいる地域の生活環境の評価（整備の重要度）

お住まいの地域での生活に関する18項目の整備の重要性についてお聞きしたところ、全項目平均の重要意向は7割強（全項目平均：重要44%+やや重要27%）で、いずれの項目も整備の重要度が高くなっています。

中でも特に「医療・福祉施設の整備」「障害者や高齢者が移動しやすいまちの整備」「歩道や歩行者専用道路の整備」「地震・火災・風水害などの防災対策」に関しては、重要と考える割合が8割を越えており、整備意向が高くなっています。

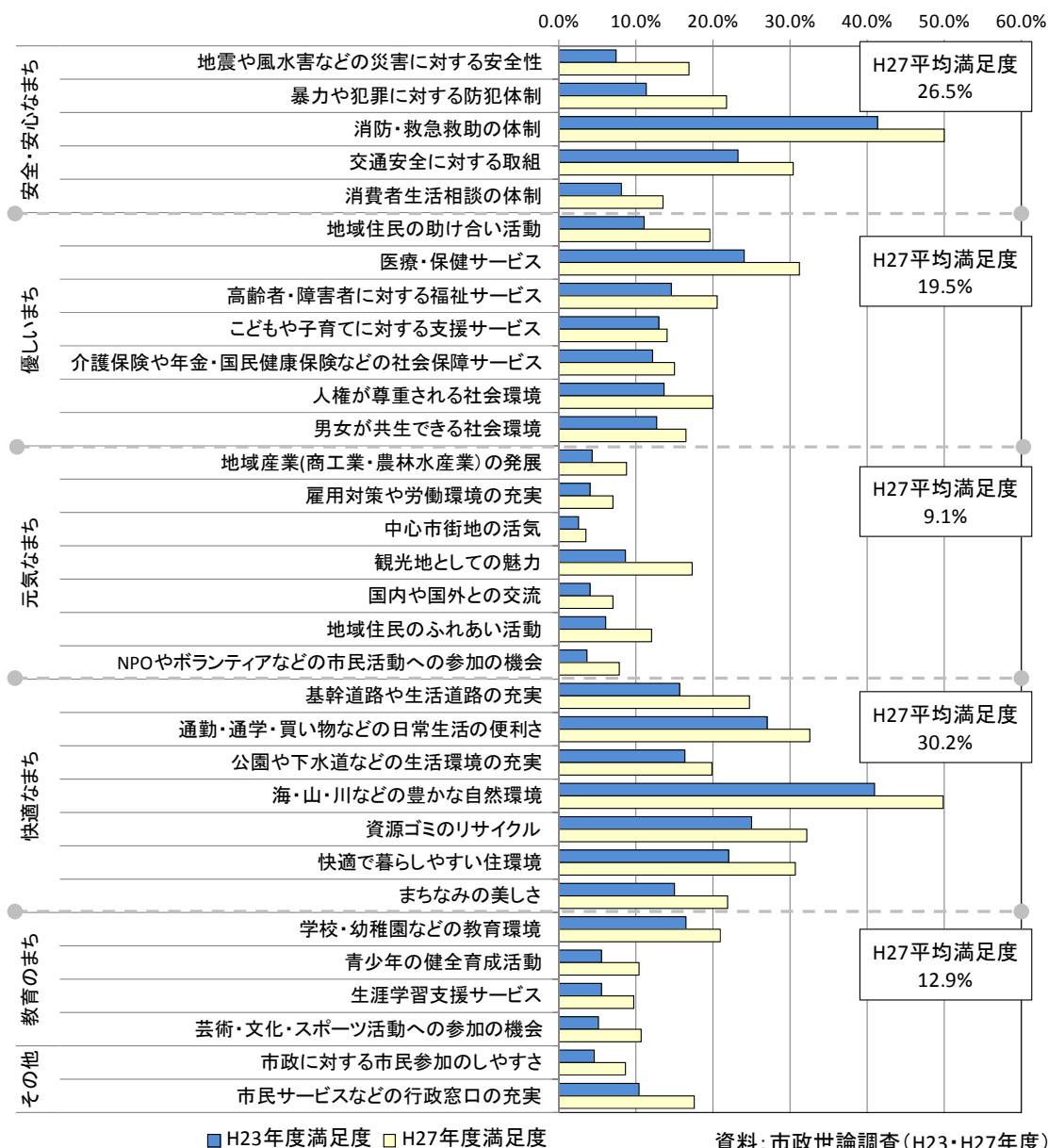
＜現在住んでいる地域の生活環境の評価（満足度）＞



① 和歌山市の取り組みに対する評価（満足度）

和歌山市の取り組みに関する市民満足度は低いものの、すべての項目において向上しています。（平成23年度13.6%→平成27年度19.4%）

満足度の傾向は、平成23年度の調査結果と同様な傾向であり、「元気なまち」「教育のまち」に対する満足度は総じて低い傾向がみられます。特に「中心市街地の活気」は設問項目中、最も低い満足率となっています。



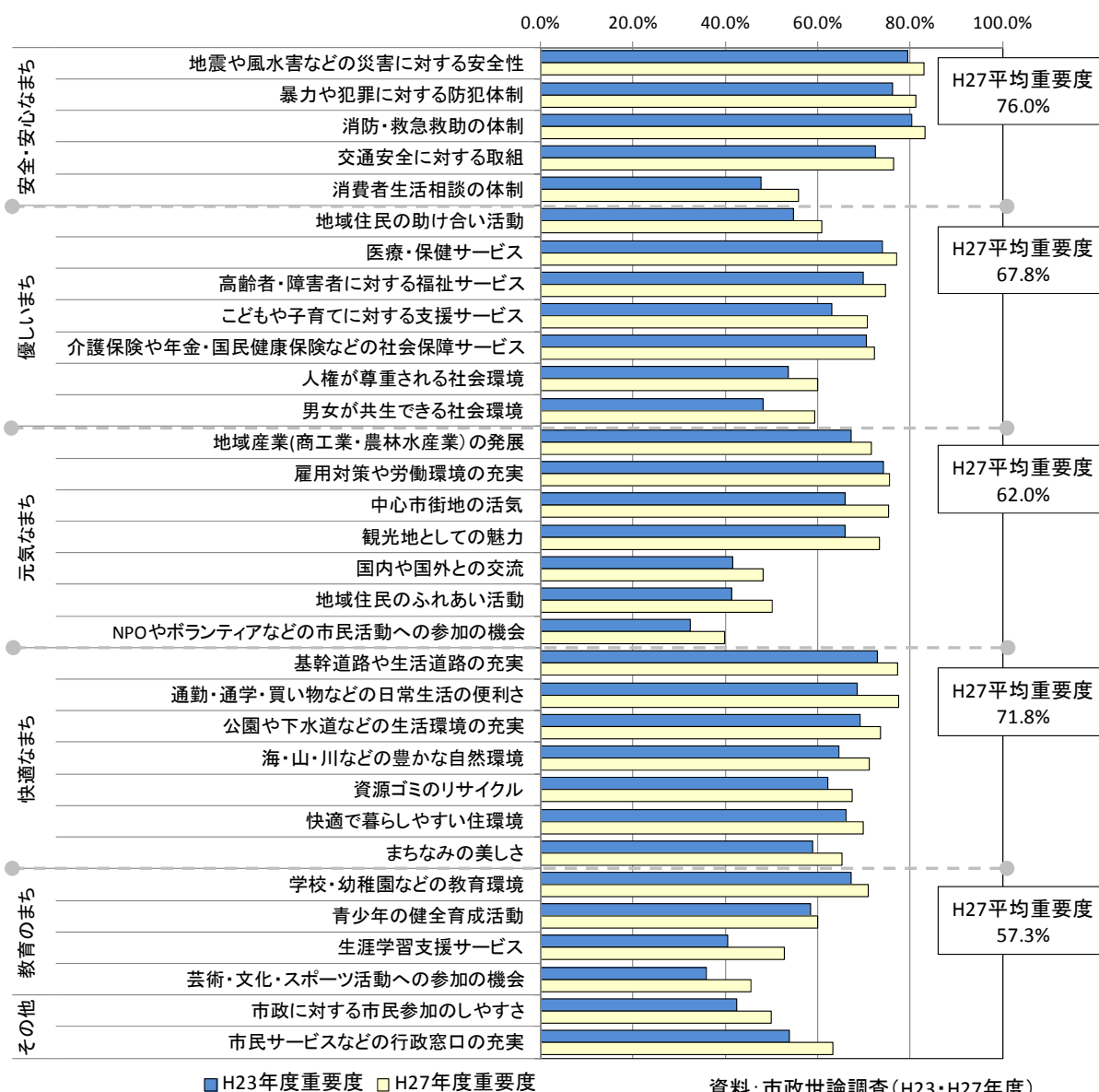
資料: 市政世論調査 (H23・H27年度)

和歌山市の取り組みに対する評価（満足度）

② 和歌山市の取り組みに対する評価（重要度）

和歌山市の取り組みに関する市民の重要度はすべての項目において向上しています。
 (平成 23 年度 60.6%→平成 27 年度 66.7%)

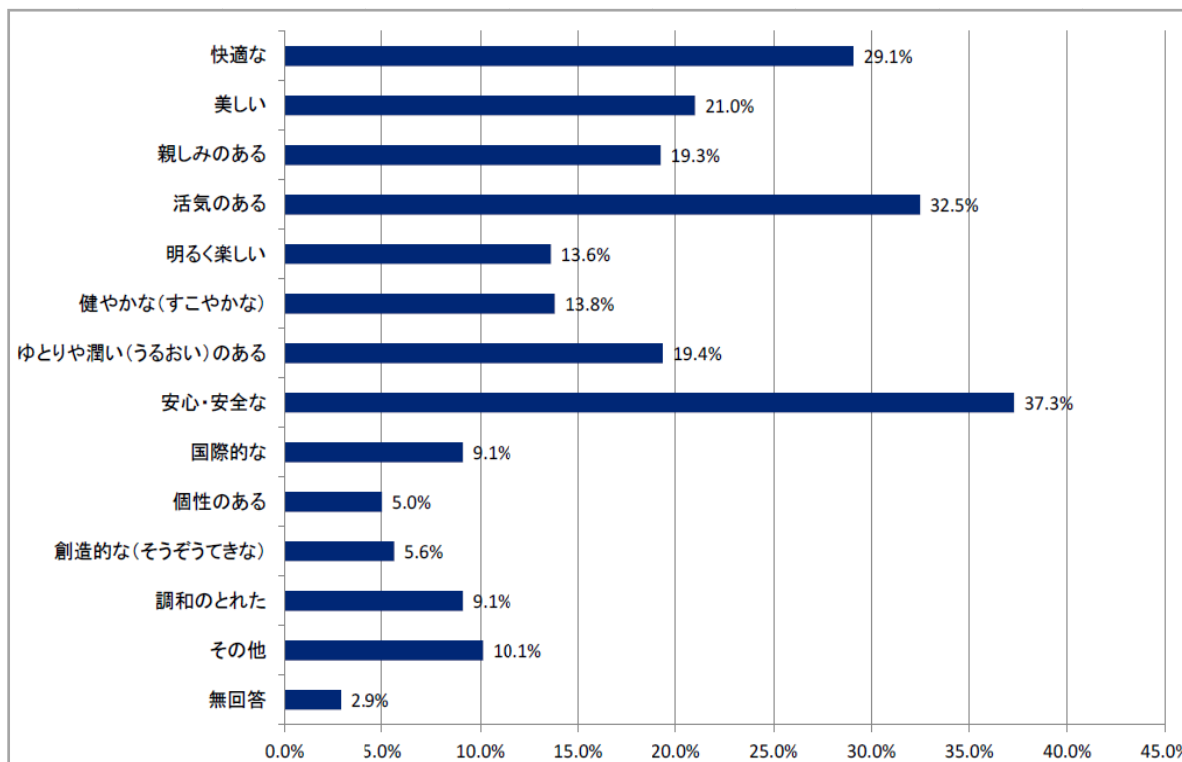
重要度の傾向は、平成 23 年度の調査結果と同様な傾向であり、「安全・安心なまち」「快適なまち」「優しいまち」「元気なまち」の順に重要度が低くなる傾向がみられます。特に「地震や風水害などの災害に対する安全性」は設問項目中、最も高い重要率となっています。



和歌山市の取り組みに対する評価（重要度）

③ 将来の和歌山市のイメージ

将来の和歌山市のイメージとしては、「安心・安全なまち」(37.3%)が最も多く、次いで、「活気あるまち」(32.5%)、「快適なまち」(29.1%)となっており、前回の計画策定時と同様な傾向となっています。



資料：和歌山市まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査結果

<和歌山市の将来像に関する前回調査との比較>

まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査 (平成 27 年)	前回アンケート調査 (平成 21 年)
1位 安全・安心なまち	1位 安全、安心なまち
2位 活気あるまち	2位 にぎやかで活気あるまち
3位 快適なまち	3位 ゆとりとうるおいのある、こころやすらぐまち

※ 前回アンケート調査とまち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査では調査内容が異なります。

④ 市全体の市民意向まとめ

全市的な都市づくりに対する意向をまとめると、以下のとおりです。

<前回調査による市全体の市民意向のまとめ>

- まちの将来像
望ましいまちの将来像としては、「安全、安心なまち」をベースとして、「活気」や「うるおい」など、様々な要素を含めながらまちの将来像を描く必要があります。また、地域別の将来像をみると、地域により意向が異なっており、それぞれの地域の意向にあわせた将来像を描く必要があります。
- まちづくりで特に力を入れてほしいこと
「中心市街地の活性化」・「商業・工業の活性化」が高順位であることから、和歌山県の中心地として、社会経済活動を活性化するまちづくりが望まれています。また、これらの活動を支える道路、下水道、河川、水路などのインフラ整備も望まれています。
- 望ましい将来を実現するための部門別取り組み
 - <土地利用>
住環境の維持や増進を図りつつ、商業地や低未利用地の活性化への取り組みが望まれています。また、都市的土地利用だけでなく、優れた自然環境の保全も望まれています。
 - <市街地整備>
中心市街地をはじめ駅前の商業拠点整備、観光・レクリエーション整備と都市を活性化させる整備が望まれています。また、市街地拡大抑制への意向もあり、集約型まちづくりへの整備も望まれています。
 - <交通体系>
歩行者・自転車専用道路や生活道路の整備、バス利用等、身近な交通体系の整備が望まれています。また、幹線道路網の整備も望まれています。
 - <公園・緑地>
身近な公園整備や、歴史・文化を活かした公園・緑地の整備が望まれています。
 - <防災>
避難地、避難路の整備とあわせ、迅速かつ的確な情報提供といったハード、ソフト両面からの防災対策が望まれています。
 - <景観>
和歌山市の魅力である自然環境の保全と歴史的景観の保全と創出、沿道のまちなみ整備と地域特性を活かした取り組みが望まれています。
 - <環境>
河川・上下水道の整備が最も望まれています。また、新エネルギーやリサイクル推進等、新たな環境共生型社会への取り組みが望まれています。
 - <福祉>
高齢者・子育て支援・障害者施設や少子高齢化社会への対応が望まれています。

<望ましい将来像>
 1位：安全、安心なまち
 2位：にぎやかで活気あるまち
 3位：ゆとりとうるおいのある
 こころやすらぐまち

<まちづくりで特に力を入れてほしいこと>
 1位：中心市街地の活性化
 2位：道路の整備
 3位：商業・工業の活性化
 4位：下水道・河川・水路などの整備

<望ましい将来を実現するための部門別取り組み>

<土地利用>	
1位：良好な住環境の維持、増進	2位：商店街など近隣商業地の活性化
3位：工場跡地等まちなか空地の有効活用	4位：森林など優れた自然環境の保全
<市街地整備>	
1位：商業エリア促進（JR和歌山駅～南海和歌山市駅）	2位：観光・レクリエーション整備
3位：駅前広場と商業施設整備	4位：市街地拡大の抑制と現在の市街地充実
<交通体系>	
1位：歩行者・自転車専用道路や公共交通優先施策	2位：生活道路の整備
3位：バスの利便性向上と利用の促進	4位：幹線となる交通網の整備
<公園・緑地>	
1位：身近な公園や子どもの遊び場整備	2位：歴史・文化を活かした公園・緑地整備
3位：スポーツ施設等の整った大規模公園の整備	
<防災>	
1位：避難地、避難路の整備	2位：迅速かつ的確な情報の提供
3位：建築物の耐震化の促進	4位：浸水危険箇所の解消
<景観>	
1位：自然景観の保全	2位：歴史的景観の保全と創出
3位：沿道のまちなみ整備	4位：歴史的な建造物や樹木等の保全
<環境>	
1位：河川・上下水道の整備	2位：太陽光発電や太陽熱等の新エネルギーの普及
3位：大気汚染や土壌、地下水汚染の解消	4位：循環型社会をめざしリサイクル推進
<福祉>	
1位：高齢者・子育て支援・障害者施設の充実	2位：医療施設や体制の充実
3位：まちのバリアフリーやユニバーサルデザインの推進	

○まちの将来像

和歌山市の将来像としては、「安全・安心なまち」に次いで「活気のあるまち」、「快適なまち」が次いでおり、身近な暮らしに対する要望が高く、暮らし続けられる都市づくりに対する対応が重視されています。

○都市づくりの取組み方向

本市の取組みに対する重要度では、総じて割合が高く傾向がつかみにくいため、満足の視点よりとりまとめている。

<安全・安心なまち>

地震・水害などの防災対策に次いで防犯に対する満足度が低く、より身近な暮らしの安全への対応が求められています。

<優しいまち>

子育て支援や社会保障に次いで地域の助け合い活動に対する満足度が低く、暮らし続けられる環境づくりへの対応が求められています。

<元気なまち>

中心市街地の活気に対する満足度が低く、次いで国内外交流、雇用環境対策となっており、まちなかや観光資源を活かした交流の活性化の対応が求められています。

<快適なまち>

公園や下水道などの生活環境の充実に対する満足度が低く、次いでまち並みの美しさ、道路基盤となっており、より身近な生活環境への対応が求められています。

<教育のまち>

生涯学習の支援に次いで青少年の健全育成に対する満足度が低く、暮らし続けられる環境づくりへの対応が求められています。

3. 和歌山市の課題

和歌山市の現状、市民アンケート調査結果から、和歌山市における都市づくりの課題として以下の事項が挙げられます。

① 都市構造

和歌山市の将来像を定め、都市計画マスタープランの上位に位置する計画として、第5次和歌山市長期総合計画（基本構想）があります。第5次和歌山市総合計画（基本構想）では、市街化区域では、中心市街地における機能充実と魅力的な市街地形成によるまちなか居住の推進、市街化調整区域では、無秩序な宅地の拡散を防止しつつ、地域生活拠点への必要機能の誘導、インターチェンジ周辺等への企業立地の促進など、生活に必要な諸機能が備わった「歩いて暮らせる」利便性の高いまちが各地域に形成されているとともに、中心核や地域の拠点間が道路・公共交通により相互に結ばれた「多極型のコンパクトなまちづくり」が方向づけられています。

<都市構造上の課題>

- 中心市街地と地域拠点の適正な機能集積と連携
- インターチェンジ周辺などの新規産業地と既存拠点間の連携
- 交流による活性化に向けた観光・レクリエーション機能間の連携

② 土地利用

和歌山市は、海、山、川と豊かな自然に恵まれ、紀の川により南北に二分される地形にあります。土地利用の現況は、商業・業務機能の集積した中心市街地、住宅及び商業の混在する周辺市街地、臨海部の工業地、郊外の住宅地及びこれら既成市街地の外縁部に広がる農地と山地になっています。

一部、山麓部での新規開発や幹線道路沿道における都市化の進展がみられるとともに、中心市街地の衰退、既成市街地における住宅と工業などの用途混在の問題や生活道路等の基盤整備の遅れなどの問題もあります。

高度成長期以降、外縁部に市街地が拡大してきましたが、近年、大型店の郊外立地、公共施設の郊外整備や少子高齢化の進展などにより、中心市街地の空洞化が進み、まちの活力の低下や人口減少等が問題となっています。

<土地利用上の課題>

- 中心市街地や地域拠点の活性化
- 既成市街地における用途地域の適正化
- 周辺市街地のスプロールの防止と計画的開発の誘導
- 住宅地、産業用地等の適正な開発の誘導
- 優良農地の保全、営農の確保等による既存農地の活用
- 山林の保全、無秩序な山林開発の抑制

③ 市街地整備

和歌山市の中心市街地は、都市インフラ、公共公益施設及び都市機能が集積しており、利便性の高い魅力的な地域ですが、近年、郊外型大規模商業施設の立地などにより商店数、商業販売額が減少し、空店舗なども増える傾向にあり、市民も中心市街地の活性化を望んでいます。平成19年度から平成24年度では、「中心市街地活性化基本計画」として中心市街地の活性化に取組み、平成24年度以降は「まちなか再生計画」として引き続き取組みがなされています。

工業の動向では、事業所数、従業員数が経年的に減少する一方、減少傾向にあった工業出荷額は平成12年以降、緩やかな増加に転じています。商業の動向では、平成16年以降、事業所数、従業員数が減少する一方、商業販売額は横ばい傾向にあります。

新規開発地の状況は、和歌山大学前で南海本線新駅が整備され、大規模集客施設の立地とともに住宅地開発が進められています。直川地区では、阪和自動車道と和歌山北インターチェンジの開設に伴い、物流を中心とする施設立地が図られています。

<市街地整備上の課題>

- 中心市街地の低未利用地の有効利用や駅周辺の商業施設整備
- 広域交通網の整備に伴うインターチェンジ周辺等における計画的開発の誘導
- 市街化区域内に残存する農地の計画的な活用
- 観光・レクリエーションの活性化に向けた施設整備

④ 都市施設

<道路>

市街地を中心に都市計画道路が計画されていますが、整備率は約67%（平成28年現在）となっています。また、通過交通と市内交通が中心市街地に集中する道路構造になっています。

前回マスタープランによる市民アンケート調査では、歩行者・自転車専用道路や生活道路の整備、バス利用等、身近な交通体系の整備が望まれています。

<公園・緑地>

和歌山市は、北部・東南部に緑豊かな山地部があり、森林公園、紀伊風土記の丘、四季の郷公園などの公園が開設されていますが、都市計画決定された都市計画公園全体の整備率は約45%であり、さらに都市計画緑地の整備率は約13%となっています。（平成28年現在）

<下水・河川・水路等>

前回の市民アンケート調査では、地域の生活環境の評価として「河川・水路・排水ポンプ場の整備」が重要と考えられており、また、まちづくりで特に力を入れてほしいこととして「下水道・河川・水路などの整備」が高く望まれています。

<都市施設整備上の課題>

- 幹線道路の整備による広域自動車交通網の整備促進
- 通過交通と市内交通の分離による円滑な道路交通網の整備
- 安心・安全な歩行者空間の整備、安全・快適な自転車利用環境の創出
- 身近な公園や歴史・文化を活かした公園の整備促進
- 上下水道、河川、水路などの整備促進

⑤ その他

近年は、防災まちづくりをはじめ、地球環境への配慮・低炭素型社会の構築、地域の歴史、文化や景観などに配慮した個性あるまちづくりの推進、ユニバーサルデザインの推進などが求められており、上位・関連計画においても規定されています。

和歌山市の将来像については、前回調査やまち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査とも「安全・安心なまち」が最上位となっており、「地震・風水害などの防災・減災対策」への要望が高くなっています。

<その他まちづくり推進上の課題>

- 産業機能、観光レクリエーション機能等の充実
- 地域環境に配慮したまちづくりの推進
- 文化、歴史、景観、緑化などに配慮した個性豊かなまちづくりの推進
- 木造家屋密集地での建替え促進、耐震化などによる防災機能の向上
- 避難地、避難路、防災空地などの整備による都市防災機能の強化
- ユニバーサルデザインに配慮した都市施設の整備
- 市民や多様な主体の連携によるまちづくりの推進